

履修コード	066221
科目名	医学一般
担当者名	小林 臻

講義の到達目標(ねらい)	将来、社会福祉領域で働く専門職が心得ておくべき、医学一般に関する知識の体得を目的とする
講義の内容/ 授業スケジュール	①医学の歩みについて学びながら、臨床医学の発展を概観する(1回) ②人体の構造と機能について学習し、生命現象に理解を深める(2～5回) ③現代社会における主な疾病について、その成因と実態について学ぶ(6～7回) ④老化現象と高齢者の病気について学び、理解を深める(8回) ⑤精神障害と精神保健について概観し、社会福祉と関係の深い疾病について学習する(9～10回) ⑥リハビリテーション医療の発展の背景と、保健・医療・福祉との相互関係や専門職の連携などについて学ぶ(11～12回) ⑦最近の公衆衛生の現状を概観する(13回) ⑧保健医療対策の現状を概観し、わが国の健康づくり対策の実際や、感染症・結核・難病及び認知症などの対策について学ぶ(14回) ⑨医事法制の概要について学ぶ(15回)
準備学習	時間内に理解できなかった内容については必ず復習する
履修上の留意点	・テレビ、新聞などの関連ニュースや記事に関心を持つ ・解剖・生理に関する内容については予習する ・遅刻20分以上は欠席とみなす
成績評価の方法	試験：出席：課題＝5：3：2の比重で評価、追試も実施する
教科書/テキスト	1) 社会福祉士養成講座編集委員会 2) 『人体の構造と機能及び疾病』 3) 中央法規 4) 2200円+税 5) ISBN 978-4-8058-3101-4
参考書	1) 安藤幸夫 2) 人体の不思議 3) ナツメ社 4) 1500円+税 5) ISBN 978-4-8163-4017-8
その他	なし

履修コード	065821 065822
科目名	医療福祉論
担当者名	宮本 博司

講義の到達目標(ねらい)	保健医療サービスにおいて、生活相談・援助を行う社会福祉士を医療ソーシャルワーカーと定義している。医療福祉論では、医療ソーシャルワーカーの歴史、理論、技術について学び、医療ソーシャルワーカーのあり方について理解を深め、医療ソーシャルワーカーがどのような倫理観・価値観に基づいて、ソーシャルワーク実践を重ねているか。また、他専門職との連携・協働、保健医療サービスを支える制度・施設・資格、チームアプローチの理論と実践事例を学ぶことを目的としている。また、現場を目指す学生にとって、保健医療の現場における現実や課題を理解し、考察できるような授業を目指す。
講義の内容/ 授業スケジュール	保健医療サービス体系と施策 ① 保健医療サービスの構成要素と推移、医療法の改正 ② 医療法・保健医療政策における医療施設の機能・類型 ③ 診療報酬における医療施設の機能・類型 ④ 医療保険制度と診療報酬体系 医療ソーシャルワーカー ① 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み ② 医療ソーシャルワーカーの業務内容 ③ 医療ソーシャルワーカーの課題 保健医療サービスにおける理論と実践 ① 医療ソーシャルワーク実践事例 (急性期・回復期リハビリテーション・慢性期・ターミナルケア等) ② 保健医療サービスの連携の理論と実践 (チームアプローチ・クリティカルパス・ケアマネジメント等)
履修上の留意点	授業への主体的な参加を望む。
成績評価の方法	定期試験、課題レポート、授業出欠等により評価。
教科書/テキスト	新・社会福祉士養成講座 17「保健医療サービス」 中央法規出版
参考書	開講時に指示する。

履修コード	066301
科目名	介護概論
担当者名	金 美辰

講義の到達目標(ねらい)	介護の役割と福祉サービスの援助者に求められる倫理観を踏まえ、援助者としての基本的姿勢を理解する。
講義の内容/ 授業スケジュール	観点から学習し、利用者主体の介護とその具現化としての実践の技法について学ぶ。 1. オリエンテーション 2. 介護とは何か：介護のイメージ 3. 介護の歴史 4. 利用者理解 5. 利用者主体とは何か 6. 介護福祉士に求められる倫理 7. コミュニケーション技法等介護技術総論 8. 認知症高齢者への理解 9. 認知症高齢者への理解 10. 施設介護・在宅介護 11. 介護保険について 12. 施設における危機管理・福祉用具 13. チームアプローチ 14. 試験
成績評価の方法	出席状況：20% 課題達成度：20% 定期試験：60%
教科書/テキスト	授業中に紹介する。
参考書	介護福祉学 介護福祉学研究会 中央法規

履修コード	066311
科目名	介護概論
担当者名	金 美辰

講義の到達目標(ねらい)	介護の役割と福祉サービスの援助者に求められる倫理観を踏まえ、援助者としての基本的姿勢を理解する。
講義の内容/ 授業スケジュール	<p>介護とは何かについて考え、介護福祉の概念や福祉サービスの援助者に求められる倫理について法律や専門生の観点から学習し、利用者主体の介護とその具現化としての実践の技法について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 介護とは何か：介護のイメージ</li> <li>3. 介護の歴史</li> <li>4. 利用者理解</li> <li>5. 利用者主体とは何か</li> <li>6. 介護福祉士に求められる倫理</li> <li>7. コミュニケーション技法等介護技術総論</li> <li>8. 認知症高齢者への理解</li> <li>9. 認知症高齢者への理解</li> <li>10. 施設介護・在宅介護</li> <li>11. 介護保険について</li> <li>12. 施設における危機管理・福祉用具</li> <li>13. チームアプローチ</li> <li>14. 試験</li> </ol>
成績評価の方法	出席状況：20% 課題達成度：20% 定期試験：60%
教科書/テキスト	授業中に紹介する。
参考書	介護福祉学 介護福祉学研究会 中央法規

履修コード	066401
科目名	介護技術
担当者名	金 美辰

講義の到達目標(ねらい)	高齢や障害によって阻害されている生活上のニーズや課題に対して利用者の個性を配慮し、自立支援の視点にたった援助方法を身につける。
講義の内容/ 授業スケジュール	<p>介護技術の基礎知識や介助時の留意点についての講義やグループでの演習を通して、利用者の自立支援の視点にたった介護技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 援助に必要な技術：コミュニケーション・観察・アセスメント</li> <li>3. 環境整備：居住環境の安全</li> <li>4. 運動・移動の技法：ボディメカニクス・上方移動・水平移動</li> <li>5. 運動・移動の技法：体位変換</li> <li>6. 運動・移動の技法：移乗・移動介助</li> <li>7. 食事介助（講義）</li> <li>8. 食事介助（演習）</li> <li>9. 排泄介助</li> <li>10. 排泄介助</li> <li>11. 衣生活の支援</li> <li>12. 福祉機器と活用法</li> <li>13. まとめ</li> </ol>
履修上の留意点	グループでの演習授業であり、前後授業の関連性が高いので出席・授業態度を重視する。
成績評価の方法	出席状況：30% 授業態度：30% レポート：40%
教科書/テキスト	授業中に紹介する。
参考書	講義の中で紹介する。
その他	実技演習授業であるので動きやすい服装が望ましい。

履修コード	066411
科目名	介護技術
担当者名	金 美辰

講義の到達目標(ねらい)	高齢や障害によって阻害されている生活上のニーズや課題に対して利用者の個性を配慮し、自立支援の視点にたった援助方法を身につける。
講義の内容/ 授業スケジュール	<p>介護技術の基礎知識や介助時の留意点についての講義やグループでの演習を通して、利用者の自立支援の視点にたった介護技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 援助に必要な技術：コミュニケーション・観察・アセスメント</li> <li>3. 環境整備：居住環境の安全</li> <li>4. 運動・移動の技法：ボディメカニクス・上方移動・水平移動</li> <li>5. 運動・移動の技法：体位変換</li> <li>6. 運動・移動の技法：移乗・移動介助</li> <li>7. 食事介助（講義）</li> <li>8. 食事介助（演習）</li> <li>9. 排泄介助</li> <li>10. 排泄介助</li> <li>11. 衣生活の支援</li> <li>12. 福祉機器と活用法</li> <li>13. まとめ</li> </ol>
履修上の留意点	グループでの演習授業であり、前後授業の関連性が高いので出席・授業態度を重視する。
成績評価の方法	出席状況：30% 授業態度：30% レポート：40%
教科書/テキスト	授業中に紹介する。
参考書	講義の中で紹介する。
その他	実技演習授業であるので動きやすい服装が望ましい。

履修コード	066001
科目名	外書講読
担当者名	東條 光雅

**講義の到達目標(ねらい)** 語学科目としての授業ではないので、訳すことではなく、その文章の意味するところをどう理解・解釈するかということが重要となる。社会福祉学に関する文献を読んでもらうが、社会福祉に関する知識や理解が不足していれば、当然、文献・文章の理解は難しくなる。その意味において、語学科目ではない。将来、研究者や教育者を目指し、他大学を含めた大学院への進学を考えているような学生の履修が望ましい。

**講義の内容／授業スケジュール** 開始当初は、履修し得る語学力の把握に努めたい。その後は、履修学生の人数にもよるが分担箇所を決め、毎時間、内容を討議しながらじっくりと講読してゆく予定である。

**準備学習** 外書講読なので、高校レベルの基本的な構文解釈・語彙といった語学能力は持っていただきたい。

**履修上の留意点** あらかじめ分担を決定して講読してゆくので、出席を重視する。

**成績評価の方法** 授業を通した平常点で評価する。したがって、出席と講読時の討議内容が評価の基礎となる。

**教科書／テキスト** 講読する文献等については、履修者が決定した段階で、履修者の関心テーマ・領域を勘案して決定したい。

**その他** 出来れば中辞典以上の辞書を各自用意してもらいたい。

履修コード	058451
科目名	家族とジェンダーの社会学A
担当者名	松信 ひろみ

**講義の到達目標(ねらい)** 本講義のテーマは、現代の結婚と家族にかかわる諸現象や問題を、社会学的な観点から考察することである。統計的なデータから、さまざまな現象や問題に関しての現状を読み取り、その現状を社会学的な観点から把握できる能力を養うことが目標となる。

**講義の内容／授業スケジュール** 授業の前半では、家族社会学の基本的な考え方を解説し、近代家族から現代家族への変遷の過程について説明する。授業の後半では、現代家族をめぐる具体的な現象や問題を取り上げ、各々について統計的なデータなども用いて現状の解説と社会学的な観点からの検討を行う。具体的には、未婚化・晩婚化の進展、離婚の増加、少子・高齢化、共働き家族の仕事と家庭生活の調和の問題などを取り上げて検討してゆく。

- 第1回 家族変動と家族のゆくえ
- 第2回 家族機能の変化
- 第3回 ライフコースと家族
- 第4回 ネットワークと家族
- 第5回 新しい家族のかたち①事実婚や同性婚
- 第6回 新しい家族のかたち②単親家族とステップ・ファミリー
- 第7回 恋愛と結婚①現代の結婚
- 第8回 恋愛と結婚②シングルライフ
- 第9回 性別役割分業と家族
- 第10回 少子化と子育て支援①現代の少子化
- 第11回 少子化と子育て支援②子育て支援
- 第12回 高齢化社会と家族①だれが介護するのか
- 第13回 高齢化社会と家族②看取りとグリーフワーク
- 第14回 ストレスとしての家族
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法** 平常点（出席・コメントペーパー）30%、レポート70%

**教科書／テキスト** 増子勝義編著『21世紀の家族さがし』学文社、2010

**参考書** 適宜紹介する

履修コード	058461
科目名	家族とジェンダーの社会学B
担当者名	松信 ひろみ

**講義の到達目標(ねらい)** 本講義のテーマは、ジェンダーの観点から現代社会の諸現象や問題を考察することである。さまざまな社会現象や問題に関して、ジェンダーの視点から検討することにより、新たに見えてくる問題を把握し、その問題について、社会学的な観点から考察を行うことを目標とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 授業の前半では、ジェンダーについて基本的な考え方を解説する。授業の後半では、ジェンダーにかかわる具体的なトピックについて、統計学的なデータも用いて現状の解説と社会学的な観点からの考察を行う。また、当該者を招いて話をさせていただくことも考えている。授業で扱う具体的なトピックは、多様な性の存在、性別役割分業とケアの担い手、雇用と就労、性暴力、性の商品化、リプロダクティブ・ヘルス&ライツなどである。

- 第1回 ジェンダーとは
- 第2回 多様な性の存在①ジェンダーとセクシュアリティ
- 第3回 多様な性の存在②セクシュアル・マイノリティの現状
- 第4回 ジェンダーと男性問題（メンズリブ）
- 第5回 ケアの担い手とジェンダー①育児の担い手
- 第6回 ケアの担い手とジェンダー②介護の担い手
- 第7回 雇用・就労とジェンダー①性別職域分離
- 第8回 雇用・就労とジェンダー②労働環境におけるジェンダー格差
- 第9回 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ①生殖にかかわる南北問題
- 第10回 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ②生殖医療
- 第11回 性暴力とジェンダー①セクシュアル・ハラスメント
- 第12回 性暴力とジェンダー②ドメスティック・バイオレンス
- 第13回 性の商品化とジェンダー①性の商品化とは
- 第14回 性の商品化とジェンダー②ポルノや売春の問題性とは
- 第15回 まとめ

**履修上の留意点** 家族とジェンダーの社会学Aと連動している部分もあるため、できれば、家族とジェンダーの社会学Aも履修しておいてほしい。

**成績評価の方法** 平常点（出席・コメントペーパー）30%、レポート70%

**教科書／テキスト** 特定の教科書は使用しないので、参考書を随時参照してほしい。

**参考書** 増子勝義編著『21世紀の家族さがし』学文社、2010  
伊藤公男『ジェンダーの社会学（新訂）』（財）放送大学教育振興会、2010

履修コード	064701
科目名	家族療法
担当者名	治田 哲之

**講義の到達目標(ねらい)** 福祉の専門家は、人間と心についてよく知っていないてはならない。それには、心理療法の知識が役に立つ。この講義では、家族療法という心理療法の一分野を切り口としながら、人間と心について具体的な形で理解を深められることを目指して授業を行う。福祉の専門家としての学生諸君にとって実り多い、楽しい授業としたい。教育目標(到達目標)は、次の2点である。(1)人間及び心について、心理学を中心とした科学的な考え方を理解し、自分の言葉で具体的に説明できること。(2)家族について、家族療法の基本概念を理解し、自分の言葉で具体的に説明できること。

**講義の内容／授業スケジュール** (1)イントロダクション／(2)心理学と心理療法について(福祉の専門家が心理療法を学ぶとどのようなよいことがあるのか)／(3～10)家族療法の考え方と特徴／(11～15)事例をもとに、家族療法の考え方と技法を紹介／(16～20)家族療法的心理臨床に役立つ諸技法の具体例／(21～25)発達という視点について(特に家族の発達という考え方について)／(26～30)家族をめぐる今日的課題とその援助  
\*以上の計画の中で、適宜、映像資料や新聞雑誌等の時事的資料に基づいた、人間や心についての考察・課題を行う

**準備学習** この科目は、授業の中で、いろいろなことを考えたり感じたりすることこそ重要なので、事前の準備は必要ない。配布したプリントを読み直したり、自分の考えを整理したりする事後の学習に力を入れてほしい。

**成績評価の方法** 後期末に行うレポートまたは試験(履修学生の希望に合わせて決める)を中心とし、普段行う授業へのコメントカードや小課題の提出状況およびその質等を加味する。また、その学生の利益になる場合には、出席(これは興味・関心の反映としてとらえる)等の状況も考慮する。

**教科書／テキスト** 使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。

**参考書** 履修学生に合わせ、授業の中で、その時学生に役に立つと思われるものを適宜紹介する。

**その他** 土曜1限は、なかなか大変だと思うので、楽しい授業になるようくふうします。リクエストにもできるだけ応えます。

履修コード	065101 065102
科目名	家庭福祉論
担当者名	武山 梅乗

**講義の到達目標(ねらい)** 家族の諸問題を女性、子ども、高齢者という観点から概観した上で、〈家族福祉〉の限界を指摘し、〈家族〉という枠組みを超えて地域、行政、NPO、企業等を巻き込みながら展開される〈家庭福祉〉の可能性について模索することを目的としています。

**講義の内容／授業スケジュール** I. 家庭福祉の視点 第1回：家庭福祉の視点、第2回：世帯構造と核家族化、第3～4回：家族制度とは、第5回：核家族の機能と構造、第6回：家族周期とライフコース、第7回：イエ制度、第8回：〈近代家族〉とは II. 女性と家庭福祉 第9～11回：フェミニズムからみた家族-母性、専業主婦、中絶、第12～13回：女性労働と育児、第14回：一人親家庭の諸問題、第15回：夫婦別姓と婚姻の意義 III. 子どもと家庭福祉 第16～17回：児童福祉の体系にみる〈子ども〉親、第18回：消費としての子育てと〈地域〉における子育て、第19～20回：児童虐待と家庭 IV. 高齢者と家庭福祉 第21回：ライフサイクルの変化にみる高齢者の諸問題、第22～23回：家族と高齢者介護、第24～25回：高齢者にとっての居住福祉 V. 国家・地域と家庭福祉 第26回：日本における家族政策と福祉国家論、第27回：在宅福祉と〈地域〉、第28回：家庭-地域福祉という枠組み VI. 民間社会福祉と家庭福祉 第29回：家庭福祉の市場性、第30回：非営利セクターと家庭福祉-配食サービスを事例として

**成績評価の方法** 出席状況を勘案した上で、講義期間中に数回提出を求める課題(2割)、夏休み明けに提出を求める小レポート(3割)、学年末の定期試験(5割)から総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 教科書は特に指定しません。随時配布するプリントに従って講義を進めます。

**参考書** 参考書は講義期間中に随時紹介します。

履修コード	073401
科目名	環境心理学
担当者名	林 久美

**講義の到達目標(ねらい)** 私たちをとりまく「環境」とは？

実にさまざまな要素からなる「環境」。人間が存在し、その周囲にある空間-室内、建築、都市...すなわち「環境」はいろいろな尺度で捉えることができる。そのなかで私たちの生活は存在し、人間と環境は常に相互に影響を与え合っている。

人間がより豊かで多様な関わりを持てる環境を作るために、人間が環境をどのように知覚・認知しているか、あるいは環境における人間行動・生態など、人間が本来的に持つ性質を実証的に明らかにする観察・実験例(環境行動研究: Environment-Behavior Studies)をもとに、それを基盤とした人間の観点に基づく環境デザインの理論的背景を得ることを目的とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 1) 環境心理学の概観・問題意識  
・環境行動デザインの意義・建築計画学と環境心理学  
2) 人間の心理・行動とそのデザインへの応用  
・人間のスケール、人間の周りの空間・環境と行動・環境のアフォーダンス・プロクセミクス・パーソナルスペース・テリトリー・ディフェンシブルスペース・空間の知覚/認知・ウェイファインディング  
3) 建築計画学における環境心理研究・実践  
・住まいと環境心理学・都市と環境心理学・こどもの発達と環境心理学・老いと環境心理学

**履修上の留意点** 日常生活に関連する事柄が多いので、日頃から自身の行動、周辺環境との関わりについて興味を持っていること。

**成績評価の方法** レポートによる。

**参考書** ・日本建築学会編：人間環境学、朝倉書店、1998  
・高橋鷹志、長澤泰、西出和彦編：シリーズ〈人間と建築〉1 環境と空間、朝倉書店、1997  
・ジョン・ラング著、高橋鷹志監訳「建築理論の創造 建築デザインにおける行動科学の役割」鹿島出版会(1992)  
・高橋鷹志+チームEBS編著：環境行動のデータファイル-空間デザインのための道具箱-、彰国社、2003

履修コード	058501
科目名	行政法
担当者名	鶏徳 啓登

**講義の到達目標(ねらい)** 現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国外的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。

本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。

**講義の内容／授業スケジュール**

1回～3回 : 行政法の意義について(法令の種別と法の解釈を含む)。  
4回～6回 : 行政作用と行政行為について。  
7回～15回 : 行政行為(特許や許可等)の意義、内容、効力について。  
16回～20回 : 行政上の強制手段と行政上の処罰について。  
21回～25回 : 国家による賠償と補償について。  
26回～30回 : 行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。

**成績評価の方法** 成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。

**教科書／テキスト** 原田尚彦著 『行政法要論』(学陽書房) 3,000円: ISBN4-313-31222-6  
『小六法』 出版社・定価各種

**参考書** 塩野宏著『行政法I・II』(有斐閣)4,000円 その他、教場にて説明。

履修コード	117501
科目名	経済原論 ◎
担当者名	福田 慎

**講義の到達目標(ねらい)** 本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。

**講義の内容／授業スケジュール**

(前期)

1. ガイダンスと成績評価
2. 消費者理論: 最適消費点と無差別曲線
3. 消費者理論: 代替効果と所得効果
4. 消費者理論: 効用関数の計算と需要曲線
5. 消費者理論: 需要の価格弾力性
6. 生産者理論: 利潤最大化と費用関数
7. 生産者理論: 損益分岐点と操業停止点
8. 生産者理論: 長期均衡、課税と費用曲線
9. 生産者理論: 特定の生産関数の扱い
10. 不完全競争の生産者理論: 独占と寡占
11. 不完全競争の生産者理論: 独占的競争
12. 余剰分析 (1)
13. 余剰分析 (2)
14. 余剰分析 (3)
15. 前期の復習

(後期)

1. 国民所得の決定 (1)
2. 国民所得の決定 (2)
3. IS-LM分析
4. 為替レート考慮したIS-LM分析
5. 消費関数と投資関数
6. 貨幣理論
7. 乗数理論 (1)
8. 乗数理論 (2)
9. 総需要・総供給分析 (1)
10. 総需要・総供給分析 (2)
11. 総需要・総供給分析 (3)
12. 総需要・総供給分析 (4)
13. 経済成長の理論 (1)
14. 経済成長の理論 (2)
15. 後期の復習

**履修上の留意点** ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。

**成績評価の方法** 試験60%, レポート40%で評価する。

**教科書／テキスト** 岩田規久男, 飯田泰之著, 『ゼミナール経済政策入門』(2006), 日本経済新聞社, ISBN: 4-532-13310-6

**参考書** ミクロ経済学: 武隈慎一, (1999), 『ミクロ経済学』, 新世社  
マクロ経済学: N. グレゴリー・マンキュー, 足立ほか訳, (2008), 『マンキューマクロ経済学I入門編』, 東洋経済新報社

**その他** 事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	063421
科目名	権利擁護と成年後見制度
担当者名	千木良 正

講義の到達目標(ねらい)	<p>本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、社会福祉士の相談援助活動に必要な法制度や権利擁護活動について具体的に学習していきます。</p> <p>(1) 相談援助活動と法制度との関わりについての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の基本原理、民法・行政法</li> <li>・成年後見制度の実際と後見人等の役割</li> </ul> <p>(2) 福祉分野における権利擁護活動の実際についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的排除や虐待などの人権侵害と権利擁護活動</li> <li>・認知症等の日常生活支援が必要な人への権利擁護活動</li> </ul>
--------------	---

講義の内容／ 授業スケジュール	(1～4) 相談援助活動と法 (5～9) 成年後見制度 (10) 日常生活自立支援事業、(11～15) 権利擁護活動の実際(高齢者虐待、障害者虐待、介護事故等。授業スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合もあります)
--------------------	--

成績評価の方法	出席、レポート、試験等により総合的に評価します。
---------	--------------------------

教科書／テキスト	講師が作成したレジュメを使用して説明します。
----------	------------------------

参考書	<p>参考書は必須ではありませんし、持ってなくても構いません。</p> <p>①大貫正男他編集「権利擁護と成年後見制度」(中央法規出版・新・社会福祉士養成講座第19巻)(国家試験の受験を考えている人は自習用に持っているとう便利でしょう)</p> <p>②日本社会福祉士会編「権利擁護と成年後見実践—社会福祉士のための成年後見入門」(民事法研究会)(成年後見制度の具体的な実践活動に興味のある人にとって、具体的なイメージを深めるための参考になります。なお、講師自身も執筆者の一人として参加しています。)</p>
-----	--

履修コード	065321 065322
科目名	公的扶助論
担当者名	伊藤 秀一

講義の到達目標(ねらい)	<p>本講の中心的テーマは、わが国の社会保障制度体系における生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。このような問題意識のもとに、慈恵的救済から権利の保障へと歩んできた公的扶助の歴史をはじめ、現行法の目的、原理、原則、組織機構、行政運営等を体系的に講述する。また、近年、注目されている権利擁護、社会的排除等にも言及する。</p>
--------------	---

講義の内容／ 授業スケジュール	<p>第1回：開講に当たって、第2回：貧困概念をめぐって、第3回：公的扶助の概念と社会保障制度下の位置と役割、第4～8回：イギリス及びわが国の公的扶助制度の歴史的展開、第9～12回：生活保護制度の概要(目的、原理、原則、扶助の種類、保護施設等)、第13回：生活保護の争訟制度とイギリスの福祉権活動、第14回：低所得対策、第15回：まとめ</p>
--------------------	--

準備学習	授業の最後に、次回の講義で扱うテーマ・問題を指示するので、事前にテキストの該当箇所を目記しておく。できれば、疑問点や質問事項をまとめておく。
------	--

履修上の留意点	指定されたテキスト以外の参考文献や新聞記事等を活用しながら学習を深め、「学生参加」型の授業を心がけたいと考えているので、貧困問題に対する関心をもってほしい。
---------	--

成績評価の方法	評価は、定期試験と出席状況を勘案して行う。
---------	-----------------------

教科書／テキスト	伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度(社会福祉士シリーズ16)』弘文堂、2008年、2500円＋税
----------	---

参考書	随時紹介する。
-----	---------

その他	視聴覚教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。
-----	------------------------------

履修コード	065621 065622
科目名	児童福祉論
担当者名	村田 一昭

講義の到達目標(ねらい)	<p>1989年に国連で子どもの権利条約が採択されて以降、「子どもの最善の利益」の追求を基本とした子どもの権利擁護サービスが重視され、伝統的な児童福祉から新たな児童福祉へと制度や実践の変革が進められてきています。そこでこの授業は、子どもと家庭を取り巻く現状を踏まえながら、子どもと家庭のウェルビーイング(well-being)をめざす新たな児童福祉である子ども家庭福祉について、その基本的枠組とソーシャルワーク実践に関する理解を深めることを目標にしています。</p>
--------------	---

講義の内容／ 授業スケジュール	<p>1. 子ども家庭福祉の理念</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ウェルフェアからウェルビーイングへ(第1回)</li> <li>②子どもの権利条約(第2回)</li> <li>③児童福祉法の基本原理(第3回)</li> </ol> <p>2. 子どもと家庭をめぐる最近の動向</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①少子化の動向と対策(第4回)</li> <li>②子ども虐待の実態と対応(第5回)</li> <li>③少年非行・少年犯罪の動向と対応(第6回)</li> </ol> <p>3. 子ども家庭福祉の法体系</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童福祉法(第7回)</li> <li>②児童福祉六法(第8回)</li> <li>③関連法(第9回)</li> </ol> <p>4. 子ども家庭福祉の実施体制</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子ども家庭福祉行政の仕組み(第10回)</li> <li>②子ども家庭福祉の実施機関(第11～12回)</li> </ol> <p>5. 子ども家庭福祉への歩み(第13回)</p> <p>6. 子ども家庭福祉施策の現状と課題(第14回)</p> <p>7. 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践の実際(第15回)</p>
--------------------	---

履修上の留意点	可能な限り、受講生とのコミュニケーションを図りながら授業を進めたいので、質問や感想などをリアクションペーパーに積極的にコメントしてください。
---------	--

成績評価の方法	課題レポートと期末試験に平常点(出席およびリアクションペーパー)を加味して評価します。
---------	---

教科書／テキスト	高橋重宏・山縣文治・才村 純編「子ども家庭福祉とソーシャルワーク(第3版)」(社会福祉基礎シリーズ⑥児童福祉論) 有斐閣 ¥2,000 ※授業内容により、プリントを配布します。
----------	---

参考書	随時、紹介します。
-----	-----------

その他	<p>①授業はパワーポイントを使用</p> <p>②各テーマ終了時に小テスト実施</p> <p>③YeStudy利用</p>
-----	--

履修コード	063441
科目名	司法福祉論
担当者名	千木良 正

講義の到達目標(ねらい)	<p>本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、更生保護制度をはじめとした司法福祉分野の実践について学習していきます。</p> <p>(1) 更生保護制度と医療観察制度の実践  ・制度の概要、制度の担い手、関係機関・団体との連携  ・近年の動向と課題</p> <p>(2) 刑事司法・少年司法その他の司法福祉分野の実践  ・司法福祉の組織・団体・専門職と他機関との連携  ・司法福祉の取り組みの実例</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>(1～2) 刑事司法・少年司法の流れ (3～10) 更生保護制度の概要、更生保護制度の担い手、関係機関・団体との連携、近年の動向と課題、出所者支援についての具体例 (11～12) 医療観察制度の概要 (13～15) 更生保護以外の司法福祉論(子ども、夫婦、親子、家族、高齢者等に関する司法と福祉の関係性など。) (授業スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合もあります)</p>
成績評価の方法	出席、レポート、試験等により総合的に評価します。
教科書／テキスト	講師作成の資料を使用します。
参考書	<p>必須ではありませんが、社会福祉士受験を考えている人は、自習用に持っているとう便利でしょう。なお、講師作成の資料(レジュメ)は、この参考書に準拠しています。</p> <p>①金平輝子他編「更生保護制度」(中央法規出版・新社会福祉士養成講座第20巻)</p>

履修コード	066151 066152
科目名	社会学(福祉)
担当者名	武山 梅乗

講義の到達目標(ねらい)	<p>社会福祉士(及び精神保健福祉士・社会福祉主事)を目指す学生を対象として、社会学の基礎的な知識(社会理論)を提示し、現代社会における今日的な諸問題や生活、及び人と社会との関係について理解することを通じて、より広い視点から「社会福祉」を展望する視点を養ってもらうことを目的としています。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>I 社会学の基礎概念(1～6回) 第1回:自我の社会性、第2回:アイデンティティと脱アイデンティティ、第3回:役割論、第4回:印象操作とドラマトウルギー、第5回:集団と組織、第6回:官僚制の逆機能</p> <p>II 現代社会論(7～10回) 第7回:ジェンダーとフェミニズム、第8回:女性らしさとダイエット、第9回:ラベリング理論とソーシャルインクルージョン、第10回:医療化と差別論</p> <p>III 地域社会論(11～13回) 第11回:アーバンイズムとコミュニティ、第12回:国土計画と過疎過密、第13回:コミュニティからネットワークへ孤族を乗り越える途一</p> <p>IV 社会変動論(14～15回) 第14回:近代化とは何か、第15回:消費社会と情報化社会</p>
準備学習	教科書は講義開始前に一読しておいてください。また、試験までには講義期間中に随時指示する参考書等にも目を通しておけばより理解が深まります。
成績評価の方法	出席状況を勘案した上で、学期末の試験(8割)と講義期間中に数回提出を求める課題(2割)から総合的に評価します。
教科書／テキスト	武山梅乗・呉炳三『社会学の扉をノックする』学文社、1575円、ISBN978-4-7620-1969-2
参考書	参考書は講義期間中に随時紹介します。

履修コード	091001
科目名	社会政策
担当者名	光岡 博美

講義の到達目標(ねらい)	<p>社会政策という科目は、経済学の中なかでも古い歴史をもっている。その詳細については最初の講義で解説する。この講義計画では、社会政策とは、資本主義社会の各々の時代において発生する社会問題の原因を学問的に究明し、その問題を解決するための政策を多面的に研究することを目的とする学問である、と定義しておきたい。そして、この場合、社会政策という学問の中なかで特に重視されてきたのは、労働問題や社会保障・福祉etcといった社会問題である。経済学という研究の分野は、財・サービスの生産・分配・消費に関する研究としてイメージされるが、これにたいして社会政策は労働力と生命の再生産が、どのような社会・経済のシステムとの関連で展開されているのかを研究する学問であるといつてよい。</p> <p>このような大きな領域を全般的に講義することは不可能であるから、この講義では現代の日本社会を念頭に置き、そこで重要と思われるテーマを設定し、各々のテーマについて講義、解説する。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>年間の具体的な講義スケジュールは、(1)現代日本の労働・雇用問題(5回)、(2)社会政策、労働関係、労働組合の理論(5回)、(3)戦後日本の労使関係史(6回)、(4)福祉国家の歴史と理論(3回)、(5)日本型福祉の現実(3回)、(6)現代日本の女性労働、フェミニズム論、(3回)を予定している。</p>
履修上の留意点	受講者数が多いせいもあり、私語によって、授業が円滑に進行しないことがある。授業に支障が生ずる場合、厳しい措置を取る。
成績評価の方法	期末試験で評価する。具体的な内容は授業時に詳しく説明する。
参考書	講義の内容と関連して参考書を適時指示する。また、毎講義ごとにレジュメを配布する。

履修コード	063461
科目名	社会調査の基礎
担当者名	東條 光雅

講義の到達目標(ねらい)	<p>この授業では、社会調査を理解してもらうために、基本的事項、質的・量的調査法、基本統計や統計分析法に関して講義する。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>社会調査の意義・目的、質的調査法、量的調査法、調査法の種類、調査の手順、調査票の作り方、サンプリング法、基本統計、統計分析法、社会調査における倫理・個人情報保護、ITの活用方法等について論じていく。</p>
履修上の留意点	この授業は、内容的に積み上げてゆくので、出席を最重視する。
成績評価の方法	原則的には、3分の2以上の出席がある場合に定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。
教科書／テキスト	『社会調査の基礎』、新社会福祉士養成講座第5巻、中央法規出版
参考書	適宜紹介する。
その他	講義はパワーポイントを使って行う予定

履修コード	067641
科目名	社会福祉援助技術演習I
担当者名	荒井 浩道

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習I・社会福祉援助技術演習IIの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Iでは、社会福祉援助技術演習IIと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉  
 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習(児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り(ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導(ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習(社会福祉援助技術現場実習III)後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習IとIIは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはIとIIでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ(実技指導)への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	067681
科目名	社会福祉援助技術演習I
担当者名	川上 富雄

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習I・社会福祉援助技術演習IIの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Iでは、社会福祉援助技術演習IIと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉  
 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習(児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り(ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導(ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習(社会福祉援助技術現場実習III)後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習IとIIは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはIとIIでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ(実技指導)への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	067671
科目名	社会福祉援助技術演習I
担当者名	讃岐 真佐子

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉援助技術演習Ⅱと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

- 〈相談援助の基本〉
- (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術
- 〈課題別相談援助演習の実技指導〉
- (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習(児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)
- 〈集団援助技術の実技指導〉
- (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り(ロールプレイ)
- 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉
- (26～29) 地域援助技術の実技指導(ロールプレイ)
- 〈総まとめ〉
- (30) 相談援助実習(社会福祉援助技術現場実習Ⅲ)後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ(実技指導)への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集Ⅱ』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	067651
科目名	社会福祉援助技術演習I
担当者名	長尾 譲治

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉援助技術演習Ⅱと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

- 〈相談援助の基本〉
- (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術
- 〈課題別相談援助演習の実技指導〉
- (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習(児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)
- 〈集団援助技術の実技指導〉
- (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り(ロールプレイ)
- 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉
- (26～29) 地域援助技術の実技指導(ロールプレイ)
- 〈総まとめ〉
- (30) 相談援助実習(社会福祉援助技術現場実習Ⅲ)後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ(実技指導)への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集Ⅱ』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	067661
科目名	社会福祉援助技術演習I
担当者名	村田 一昭

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習I・社会福祉援助技術演習IIの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Iでは、社会福祉援助技術演習IIと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉  
 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習(児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り(ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導(ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習(社会福祉援助技術現場実習III)後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習IとIIは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはIとIIでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ(実技指導)への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	068041
科目名	社会福祉援助技術演習II
担当者名	荒井 浩道

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習I・社会福祉援助技術演習IIの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習IIでは、社会福祉援助技術演習Iと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉(9～20) 様々なケースに関する相談援助演習(児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り(ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導(ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習(社会福祉援助技術現場実習III)後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習IとIIは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはIとIIでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ(実技指導)への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	068081
科目名	社会福祉援助技術演習II
担当者名	川上 富雄

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	068071
科目名	社会福祉援助技術演習II
担当者名	讃岐 真佐子

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	068051
科目名	社会福祉援助技術演習II
担当者名	長尾 譲治

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で体得することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	068061
科目名	社会福祉援助技術演習II
担当者名	村田 一昭

**講義の到達目標(ねらい)** 本学では、相談援助演習をソーシャルワーク演習及び社会福祉援助技術演習Ⅰ・社会福祉援助技術演習Ⅱの3科目に分けて指導することとしている。社会福祉援助技術演習Ⅱでは、社会福祉援助技術演習Ⅰと合わせ、ソーシャルワーク演習の様々な事例研究で学んだ相談援助技術について、主としてロールプレイによる実技指導の形式で指導することを授業の主な目的としている。

**講義の内容／授業スケジュール**

〈相談援助の基本〉  
 (1～3) 自己覚知 (4～5) 基本的コミュニケーション技術 (6～8) 基本的面接技術  
 〈課題別相談援助演習の実技指導〉 (9～20) 様々なケースに関する相談援助演習 (児童虐待、障害者の自立、DV、ホームレス、危機状態にある利用者の権利擁護など、各種相談援助のロールプレイ)  
 〈集団援助技術の実技指導〉  
 (21～25) 集団援助技術の立案・実践・振り返り (ロールプレイ)  
 〈地域福祉の基盤整備と開発に関する実技指導〉  
 (26～29) 地域援助技術の実技指導 (ロールプレイ)  
 〈総まとめ〉  
 (30) 相談援助実習 (社会福祉援助技術現場実習Ⅲ) 後における各自の援助技術・知識に関する体験の交流

**履修上の留意点** 社会福祉援助技術演習ⅠとⅡは2時限連続の授業として開講している。したがって、日程・各回のテーマはⅠとⅡでは同一となり、それぞれのテーマについて、より深く実技指導を行う。  
 なお受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 単位取得のためには、授業への出席が必須となる。また、ロールプレイ (実技指導) への参加状況、平常点、及び課題レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集Ⅱ』 (社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	063401
科目名	社会福祉援助技術各論ⅠA
担当者名	荒井 浩道

**講義の到達目標(ねらい)**

1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。

**講義の内容／授業スケジュール**

1. オリエンテーション
2. 人と環境の相互作用 (システム理論)
3. 相談援助の対象 (相談援助の対象の概念と範囲)
4. 様々な実践モデルとアプローチ① (治療モデル)
5. 様々な実践モデルとアプローチ② (生活モデル)
6. 様々な実践モデルとアプローチ③ (ストレングスモデル)
7. 様々な実践モデルとアプローチ④ (問題解決アプローチ)
8. 様々な実践モデルとアプローチ⑤ (課題中心アプローチ)
9. 様々な実践モデルとアプローチ⑥ (危機介入アプローチ)
10. 様々な実践モデルとアプローチ⑦ (行動変容アプローチ)
11. 様々な実践モデルとアプローチ⑧ (ケースマネジメント/ケアマネジメント)
12. 様々な実践モデルとアプローチ⑨ (ジェネラリスト・アプローチ)
13. 様々な実践モデルとアプローチ⑩ (エンパワメント・アプローチ)
14. 様々な実践モデルとアプローチ⑪ (社会構成主義、ナラティブ・アプローチ)
15. まとめ

**履修上の留意点** 授業への主体的参加を期待します。

**成績評価の方法** 出席、レポート、試験等により総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座第7巻)』 (中央法規出版)  
 福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座第8巻)』 (中央法規出版)

**参考書** 授業のなかで随時指示します。

履修コード	063501
科目名	社会福祉援助技術各論ⅠB
担当者名	荒井 浩道

**講義の到達目標(ねらい)**

1. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する (介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む)。

**講義の内容／授業スケジュール**

1. オリエンテーション
2. 相談援助の過程① (インテーク、アセスメント)
3. 相談援助の過程② (プランニング、インターベンション)
4. 相談援助の過程③ (モニタリング、エバリュエーション)
5. 相談援助の過程④ (ターミネーション、アフターケア)
6. 相談援助における援助関係 (意義、目的、方法、留意点) ①
7. 相談援助における援助関係 (意義、目的、方法、留意点) ②
8. 相談援助のための面接技術 (意義、目的、方法、留意点) ①
9. 相談援助のための面接技術 (意義、目的、方法、留意点) ②
10. アウトリーチ (意義、目的、方法、留意点) ①
11. アウトリーチ (意義、目的、方法、留意点) ②
12. 集団を活用した相談援助 (意義、目的、方法、留意点) ①
13. 集団を活用した相談援助 (意義、目的、方法、留意点) ②
14. まとめ

**履修上の留意点** 授業への主体的参加を期待します。

**成績評価の方法** 出席、レポート、試験等により総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座第7巻)』 (中央法規出版)  
 福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座第8巻)』 (中央法規出版)

**参考書** 授業のなかで随時指示します。

履修コード	063601
科目名	社会福祉援助技術各論II A
担当者名	川上 富雄

**講義の到達目標(ねらい)** 相談援助(ソーシャルワーク)過程と、それに係る知識と技術について理解する。とりわけ、本講義においては、ソーシャルワークの中核的技術であるアセスメントとケアマネジメント(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画、児童分野における児童自立支援計画等についての理解を含む)についての理解を深める。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. オリエンテーション
  2. ソーシャルワークとケアマネジメント①
  3. ソーシャルワークとケアマネジメント②
  4. 高齢者分野における援助計画①
  5. 高齢者分野における援助計画②
  6. 高齢者分野における援助計画③
  7. 障害者分野における援助計画①
  8. 障害者分野における援助計画②
  9. 障害者分野における援助計画③
  10. 児童分野における援助計画①
  11. 児童分野における援助計画②
  12. その他の分野における援助計画①
  13. その他の分野における援助計画②
  14. その他の分野における援助計画③
  15. まとめ

**準備学習** テキストおよび参考図書の通読。

**履修上の留意点** 本科目で学ぶ内容は、3年次の相談援助実習において実際に取り組むものであるため、2年次までに履修することが望ましい。一方で、各分野における制度概要や対象者像、利用の仕組み、施設・在宅サービス等に関する一定の前提的知識も必要となるため、1年次に履修する学生は相当の準備をもって臨むこと。

**成績評価の方法** 期末試験の成績に、課題・レポート点等を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。

**教科書／テキスト**

- 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 2009
- 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版 2009

**参考書**

- 白澤政和・蛭江紀雄著『ケアマネジメント—在宅・施設のケアプランの考え方・つくり方』全国社会福祉協議会 2009
- 植田章『障害者福祉実践とケアマネジメント—個別支援計画作成と相談支援の手引』かがわ出版 2008
- 門田光司・柳沢享・平沢紀子著『知的障害・自閉症の方へのケアマネジメント入門』中央法規出版 2003
- 児童自立支援計画研究会編『子ども・家族への支援計画を立てるために—子ども自立支援計画ガイドライン』日本児童福祉協会 2005
- 安梅勲江編著『コミュニティ・エンパワメントの技法』医歯薬出版 2005
- その他、講義中に紹介する。

**その他** 基本的には講義形式で行うが、一部グループ演習、課題発表などを盛り込む場合がある。

履修コード	063701
科目名	社会福祉援助技術各論II B
担当者名	川上 富雄

**講義の到達目標(ねらい)** 相談援助(ソーシャルワーク)過程と、それに係る知識と技術について理解する。とりわけ、本講義においては、ケースカンファレンス、社会資源活用・調整・開発、コーディネーションとネットワーク、スーパービジョンとコンサルテーション、グループワーク、福祉情報とICT(情報通信技術)、個人情報保護、事例研究法等についての理解を深める。

- 講義の内容／授業スケジュール**
1. オリエンテーション
  2. 相談援助における社会資源活用・調整・開発の意義と方法①～概説
  3. 相談援助における社会資源活用・調整・開発の意義と方法②～地域アセスメント
  4. コーディネーションとネットワークの意義と方法
  5. コーディネーションとネットワークの意義と方法
  6. スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法
  7. スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法
  8. ケースカンファレンスの意義と方法
  9. グループワークの意義と方法
  10. サービスの質の向上と権利擁護システムへの取り組み
  11. 相談援助におけるICT(情報通信技術)の活用
  12. 相談援助における個人情報保護
  13. 事例分析・事例研究法
  14. 事例研究
  15. まとめ

**準備学習** テキストおよび参考図書の通読。

**履修上の留意点** 本科目で学ぶ内容は、3年次の相談援助実習において実際に取り組むものであるため、2年次までに履修することが望ましい。一方で、各分野における制度概要や対象者像、利用の仕組み、施設・在宅サービス、専門職の役割等に関する一定の前提的知識も必要となるため、1年次に履修する学生は相当の準備をもって臨むこと。

**成績評価の方法** 期末試験の成績に、課題・レポート点等を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。

**教科書／テキスト**

- 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 2009
- 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版 2009

**参考書** 講義中に指示する。

**その他** 基本的には講義形式で行うが、一部グループ演習、課題発表などを盛り込む場合がある。

履修コード	067141
科目名	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ
担当者名	川上 富雄

講義の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉援助技術現場実習の意義の理解</li> <li>・社会福祉専門職業務の理解</li> <li>・社会福祉施設・機関の特徴・役割の理解</li> <li>・配属実習に向けた心構え／倫理観の形成</li> <li>・各自の配属実習希望分野の明確化</li> </ul>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>この授業では、社会福祉援助技術現場実習の意義を理解するとともに、社会福祉専門職の業務、社会福祉施設・機関の特徴・役割について理解を深めます。また、この授業は配属実習を含む社会福祉援助技術現場実習ⅡⅢの事前学習であるため、配属実習に向けた心構え／倫理観の形成を目指し、また各自の配属実習希望分野を明確にします。</p> <p>授業形態としては、講義、ビデオ教材の視聴、グループディスカッション、課題学習、プレゼンテーションなどを組み合わせて行います。また、この授業において、配属実習のスクリーニングが実施されます。なお、この授業は変則的な開講形態を採用しているため、詳しくは初回講義時に説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の流れ／内容／心構え</li> <li>2. 行政機関の理解</li> <li>3. 高齢者分野の理解</li> <li>4. 障害者分野の理解</li> <li>5. 児童分野の理解</li> <li>6. 地域福祉分野の理解</li> <li>7. 医療分野の理解</li> <li>8. 精神保健福祉分野の理解</li> <li>9. スクリーニング</li> </ol>
準備学習	テキストの通読。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。原則として、無断欠席は認められません。
成績評価の方法	必修科目の履修状況、レポート、授業への参加態度等により選抜試験（スクリーニングテスト）の受験資格を得、それに合格することが必要です。
教科書／テキスト	白澤・米本編／日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助実習』中央法規 2009 その他必要な資料は随時配布します。
参考書	授業のなかで随時指示します。
その他	この授業は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な指定科目のひとつです。この授業の単位未修得者は、後期のソーシャルワーク演習、翌年度の社会福祉援助技術現場実習Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉援助実習の履修は認められません。

履修コード	067241
科目名	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ
担当者名	荒井 浩道

講義の到達目標(ねらい)	<p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱでは、社会福祉援助技術現場実習Ⅰでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導（体験発表、実習レポート原稿作成等）を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。</li> <li>②実習事前指導（実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習）を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理（個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務）について理解する。</li> <li>③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。</li> </ol>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>（1）実習事前オリエンテーション （2）実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 （3～6）実習計画の作成 （7～9）相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習（車いす・介護用ベッドを用いての実技指導） （10～11）見学実習及び現場体験学習（実習先訪問） （12～21）各自の実習体験発表 （22～25）テーマ別体験発表 （26～29）実習体験個別フィードバック（実習評価の提示、課題の整理など） （30）授業及び実習の評価全体総括会（実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある）</p> <p>※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。 ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。</p>
履修上の留意点	<p>受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。</p> <p>クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。</p>
成績評価の方法	授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。
教科書／テキスト	開講時に指示する。
参考書	『社会福祉士実践事例集Ⅱ』（社団法人日本社会福祉士会編・中央法規）

履修コード	067251
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	伊藤 秀一

**講義の到達目標(ねらい)** 社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導(体験発表、実習レポート原稿作成等)を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。  
 ①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。  
 ②実習事前指導(実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習)を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理(個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務)について理解する。  
 ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。

**講義の内容／授業スケジュール** (1)実習事前オリエンテーション (2)実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3~6)実習計画の作成 (7~9)相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習(車いす・介護用ベッドを用いての実技指導) (10~11)見学実習及び現場体験学習(実習先訪問) (12~21)各自の実習体験発表 (22~25)テーマ別体験発表 (26~29)実習体験個別フィードバック(実習評価の提示、課題の整理など) (30)授業及び実習の評価全体総括会(実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある)  
 ※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。  
 ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。

**履修上の留意点** 受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	067261
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	桐原 宏行

**講義の到達目標(ねらい)** 社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導(体験発表、実習レポート原稿作成等)を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。  
 ①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。  
 ②実習事前指導(実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習)を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理(個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務)について理解する。  
 ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。

**講義の内容／授業スケジュール** (1)実習事前オリエンテーション (2)実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3~6)実習計画の作成 (7~9)相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習(車いす・介護用ベッドを用いての実技指導) (10~11)見学実習及び現場体験学習(実習先訪問) (12~21)各自の実習体験発表 (22~25)テーマ別体験発表 (26~29)実習体験個別フィードバック(実習評価の提示、課題の整理など) (30)授業及び実習の評価全体総括会(実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある)  
 ※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。  
 ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。

**履修上の留意点** 受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	067271
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	東條 光雅

**講義の到達目標(ねらい)** 社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導(体験発表、実習レポート原稿作成等)を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。  
 ①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。  
 ②実習事前指導(実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習)を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理(個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務)について理解する。  
 ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。

**講義の内容／授業スケジュール** (1)実習事前オリエンテーション (2)実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3~6)実習計画の作成 (7~9)相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習(車いす・介護用ベッドを用いての実技指導) (10~11)見学実習及び現場体験学習(実習先訪問) (12~21)各自の実習体験発表 (22~25)テーマ別体験発表 (26~29)実習体験個別フィードバック(実習評価の提示、課題の整理など) (30)授業及び実習の評価全体総括会(実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある)  
 ※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。  
 ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。

**履修上の留意点** 受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	067281
科目名	社会福祉援助技術現場実習II
担当者名	長尾 譲治

**講義の到達目標(ねらい)** 社会福祉援助技術現場実習IIでは、社会福祉援助技術現場実習Iでの学習内容を受け、相談援助実習を行うに際しての事前指導、実習中の巡回指導、実習終了後の継続指導(体験発表、実習レポート原稿作成等)を行う。これらの指導を通じ、次の諸点を体得することが教育目標及び達成課題となる。  
 ①個別指導及び集団指導を通じ、相談援助実習の体系及び意義を理解する。  
 ②実習事前指導(実習先で必要な介護・保育等の体験学習、相談援助技術及びその知識の再確認、現場体験プレ学習)を通じ、実習先で必要とされる相談援助の知識・技術・福祉倫理(個人情報保護法を含むプライバシー保護と守秘義務)について理解する。  
 ③各自が実習計画において実習課題として取り上げた内容について、現場体験を踏まえながら個別具体的に理解・解決し、自らの専門知識・技術の実践的再確認を行う。

**講義の内容／授業スケジュール** (1)実習事前オリエンテーション (2)実習におけるプライバシー保護・守秘義務に関する説明と実例研究、実習記録ノートの書き方に関する説明と質疑応答、実例の提示 (3~6)実習計画の作成 (7~9)相談援助技術の再確認及び介護・保育等の体験実習(車いす・介護用ベッドを用いての実技指導) (10~11)見学実習及び現場体験学習(実習先訪問) (12~21)各自の実習体験発表 (22~25)テーマ別体験発表 (26~29)実習体験個別フィードバック(実習評価の提示、課題の整理など) (30)授業及び実習の評価全体総括会(実習科目の性格上、授業スケジュールは進度に応じて若干の調整を行う場合がある)  
 ※実習巡回指導は、各自の配属実習中に、実習先への個別訪問として行う。  
 ※実習総括レポート原稿作成は、実習終了者から順に、個別指導として行う。

**履修上の留意点** 受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」及び「ソーシャルワーク演習」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 授業への出席状況・個別発表状況とレポート原稿提出、及び実習先での勤務状況・評価表等を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『社会福祉士実践事例集II』(社団法人日本社会福祉士会編・中央法規)

履修コード	06721
科目名	社会福祉援助技術現場実習III
担当者名	長尾 譲治 東條 光雅 伊藤 秀一 桐原 宏行 荒井 浩道 川上 富雄

**講義の到達目標(ねらい)** 社会福祉援助技術現場実習IIIでは、福祉現場において、実習指導者および実習担当教員のもとで、次の諸点を体験的かつ実践的に習得することが教育目標及び達成課題となる。  
 ①社会福祉援助技術の実際や具体的内容、福祉現場の抱える課題・各専門職の職務・福祉倫理等について、福祉現場における直接経験学習に基づいて総合的に把握する。  
 ②社会福祉士としての資質と職業倫理、他の専門職との連携のあり方、自己に求められる今後の学習課題等を実践的に把握する。福祉現場において、実習指導者のもとで、相談援助の知識及び技術について具体的に指導を受けるとともに、社会福祉士としての資質と職業倫理、他の専門職との連携のあり方、自己に求められる今後の学習課題等を実践的に把握する。

**講義の内容／授業スケジュール** 本科目は福祉現場における体験学習であり、各実習先での180時間以上にわたる実習の中で実習指導者による指導を受け、主として次のような内容・方法で、社会福祉士に求められる知識・技術を習得していくことになる。  
 (1)利用者とその関係者・施設・職員・地域住民やボランティアとのコミュニケーション技術の習得 (2)利用者のニーズの理解と需要の把握、個別支援計画の作成実習 (3)相談援助面接への同席等による個別援助技術の実践的理解 (4)実習先における集団援助技術の取り組みに関する実践的理解 (5)実習先における地域社会への働きかけに関する実践的理解 (6)他職種の業務内容や管理運営面・職員就業規則等に関する実務の把握・他職種連携(チームアプローチ)の実際の把握、チームの一員としての役割・責務の自覚的理解 (7)実習巡回指導による学生の課題達成状況の確認及び実習先との指導上の連絡調整 (8)帰校日指導による学生の実習状況の確認、個別指導

**履修上の留意点** 受講の条件として、前年の「社会福祉援助技術現場実習I」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。  
 クラス分けは事前に提示するので、指定されたクラスで受講すること。

**成績評価の方法** 実習への出席状況、実習巡回指導時の実習指導者からの所見、帰校日指導への出席状況、実習評価表の評価内容を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 開講時に指示する。

**参考書** 『新・社会福祉施設現場実習指導マニュアル』(全国社会福祉協議会)

履修コード	063301
科目名	社会福祉援助技術総論
担当者名	荒井 浩道

**講義の到達目標(ねらい)** ①社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む)と意義について理解する。  
 ②精神保健福祉士の役割と意義について理解する。  
 ③相談援助の概念と範囲について理解する。  
 ④相談援助の理念について理解する。  
 ⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。  
 ⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。  
 ⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

**講義の内容／授業スケジュール** 【前期】  
 ・オリエンテーション [第01回]  
 ・社会福祉士の役割と意義 [第02回～第03回]  
 ・相談援助の定義と構成要素 [第04回～第05回]  
 ・相談援助の形成過程I [第06回～第07回]  
 ・相談援助の形成過程II [第08回～第09回]  
 ・相談援助の理念I [第10回～第12回]  
 ・相談援助の理念II [第13回～第15回]  
 【後期】  
 ・専門職倫理と倫理的ジレンマ [第16回～第17回]  
 ・総合的かつ包括的な援助の全体像 [第18回～第19回]  
 ・総合的かつ包括的な援助を支える理論I [第20回～第22回]  
 ・総合的かつ包括的な援助を支える理論II [第23回～第25回]  
 ・相談援助にかかる専門職の概念と範囲 [第26回～第27回]  
 ・総合的かつ包括的な援助における専門的機能 [第28回～第29回]  
 ・まとめ [第30回]

**履修上の留意点** 授業への主体的参加を期待します。

**成績評価の方法** 出席、レポート、試験等により総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職(新・社会福祉士養成講座第5巻)』(中央法規出版)

**参考書** 授業のなかで随時指示します。

履修コード	064101
科目名	社会福祉学特講I [児童]
担当者名	山本 哲也

**講義の到達目標(ねらい)** 近年、子どもを取り巻く諸問題は、複雑化、多様化し、深刻化してきている。本講では、子どもを取り巻く諸問題を整理、理解すること、支援を必要とする子どもを理解することをねらいとする。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期は、子どもを取り巻く諸問題について、新聞記事をもとにレポートを作成し、ディスカッションを織り交ぜながら、問題の理解を深めていく。  
 後期は、受講生の作成したレポートをもとに、ディスカッションを織り交ぜながら、子どもを取り巻く諸問題について問題の理解を深めていく。

**準備学習** 毎時間、次の時間の準備のための課題を課す。

**履修上の留意点** 具体的な講義内容は、受講生の興味にあわせて決定していく。なお、受講生によるレポートをもとに、受講生とともに、「考えること」を重視した授業とするので、受講生は主体的・積極的に参加することを望む。

**成績評価の方法** 出席状況と課題レポートに加えて、ディスカッションへの参加状況など受講姿勢・意欲によって、総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 初回授業で指定する。

**参考書** 必要に応じ、その都度指示する。

**その他** ・30分以上の遅刻は入室を認めないので、そのつもりで受講すること。  
 ・4年次生で、就職活動により欠席する場合も、特別な配慮はしないので、そのつもりで受講すること。

履修コード	064201
科目名	社会福祉学特講II [老人]
担当者名	橋内 真里子

講義の到達目標(ねらい)	(1) 高齢者福祉の現場で求められる知識・技術を習得する。 (2) ホスピタリティや人権尊重、利用者本位のサービス等について、新聞記事や事例などから考える。 (3) 社会福祉専門職(対人援助職)としての資質を自ら育て、確実なものとする。
講義の内容/ 授業スケジュール	1回目 教科の目的と前期の予定について。 2～4回目 高齢者の身体的・心理的特性。 5～7回目 高齢者のライフスタイルから見る特性。 8～10回目 高齢者福祉の視点・目的等。 11～14回目 高齢者福祉の現場を理解する。 15回目 前期のまとめ。 16回目 前期の確認と後期の予定について。 17～19回目 実習での体験や夏休みの体験(ボランティア等)について。 20～22回目 文字で表現された高齢者福祉(ケア含む)から考える。 23～25回目 高齢者福祉に携わる専門職について。 26～28回目 対人援助職としての技術・資質について考える。 29回目 まとめ 30回目 定期試験(レポート)
履修上の留意点	本や新聞を読んで下さい。気にかかるものや興味を持ったもの、必要と思ったものは、メモしたりスクラップしておいて下さい。講演会や研修会にも積極的に参加して下さい。それらをもとにグループワークも予定しています。「見る」「聞く」「話す」「考える」「発言する」「提案する」などに慣れましょう。
成績評価の方法	出席状況、グループワークへの参加状況、レポートなどを総合的に評価します。
教科書/テキスト	未定ですが、毎回の講義の始まりか終わりに、読んで欲しい本や聞いて欲しい講演会などを紹介します。随時資料を配付し、ビデオ等の視聴も予定しています。
参考書	未定ですが、毎回の講義の始まりか終わりに、読んで欲しい本や聞いて欲しい講演会などを紹介します。随時資料を配付し、ビデオ等の視聴も予定しています。

履修コード	064301
科目名	社会福祉学特講III [障害児・者]
担当者名	佐藤 将朗

講義の到達目標(ねらい)	本授業では障害の概念を学ぶことから始め、障害者(児)が社会の中でよりよく生きていくために、どのようなことが問題となるかを中心に学習していきます。具体的には身体障害、知的・発達障害、精神障害、認知症の各定義、心理的影響などを整理し、これらを土台として、ノーマライゼーションという人権思想のもと、障害者(児)が社会の中でよりよく生きていくとはどのような意味をもつか、また障害者(児)と健常者(児)の関わりはどのようにあるべきかなどについて、履修者自身の見解を深めていくことを目標とします。
講義の内容/ 授業スケジュール	前期は、障害の概念(1-2)、ノーマライゼーションなどの人権思想(3-4)、身体障害者(児)の理解と社会生活における問題点(5-7)、知的・発達障害者(児)の理解と社会生活における問題点(8-10)、精神障害者(児)の理解と社会生活における問題点(11-12)、認知症高齢者の理解と社会生活における問題点(13-14)、前期のまとめとしての課題作業(15)とする。 後期はメディアの取り上げる障害者(児)問題(1-6)、障害者(児)へのケースワークの事例(7-8)、障害者(児)へのグループワークの事例(9)、障害者(児)の属する環境へのコミュニティーワークの事例(10)、履修者の興味・関心に応じた障害者(児)問題の今日の話題に関する討議(11-12)、本授業のまとめとしての課題作業(13-15)とする。
準備学習	障害者問題、高齢者問題、社会福祉がキーワードとなる各種メディア情報(新聞、書籍、テレビ番組や映画などの作品、インターネットなどで公表されているものなど)を自分なりに整理しておくことが望ましい。
履修上の留意点	「人に優しくするとはどのようなことか」、「人を支援するとはどのような意味があるか」、「人の道とは何か」といったいわゆる人道的視点と、「社会の中でより良く生きるとはどのようなことか」、「生活を豊かにするとはどのような意味があるか」など、いわゆる社会福祉的視点の両方について科学的に思考できる人、あるいはそのような人物になりたいと考えている人に最適の授業だと考えます。
成績評価の方法	前期はまとめとして提出する課題(50%)、授業時の小課題(40%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。後期は最終的に提出する課題(80%)、授業時の小課題(10%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。これらによって得られた前・後期の成績を総合的に判断したものを全体の成績とする。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に随時指定する。
その他	基本的に講義形式で進める。学習する内容によっては、履修者による発表や討論を行ってもらう。また、ビデオ、DVD等の視聴を随時行う。

履修コード	064401
科目名	社会福祉学特講IV [相談・援護]
担当者名	青山 宗雄

講義の到達目標(ねらい)	グローバル化を象徴する情報の近代化は、自ずと人々の意識にさまざまな影響を及ぼさずにはおかない状況となっている。このことは、互いに異なる文化(コトバ)をもつ人間同士の理解という側面にも一石を投じることとなり、改めて、人間の語る“コトバ”の背景に潜む“秘められた意味の世界”をよみ解く力が求められている。 本講においては、「相談・援護」という極めて日常的な人間の営みについて考察するが、しかし、それが常に古くて新しい命題でありつづけることの意味を探究する。
講義の内容/ 授業スケジュール	前期は、児童福祉現場におけるそれぞれの機関の役割や実態について概観するが、それと並行して、すでにプログラム化(刷り込まれた)されたところの“メカネ”が、果たしてどんな色をしているのかに気づくことの難しさについて、いろいろな視点から掘り下げてみる。 後期は、事例研究や時事問題などをテーマとした議論やイメージトレーニングをとおして臨床感覚を養うとともに、人間同士が真に向き合うことの大切さを学習する。
履修上の留意点	「自分」という人間への気づき、洞察を深められるような幅広い議論を期待したい。
成績評価の方法	出席状況、討論、レポートなどの総合評価。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて紹介する。

履修コード	064501
科目名	社会福祉学特講V〔福祉事務所〕
担当者名	船水 浩行

**講義の到達目標(ねらい)** 社会福祉法に規定される「福祉に関する事務所」(福祉事務所)を巡る諸課題を考察する。昭和26年に発足した福祉事務所は、戦後、生活保護法等のいわゆる福祉六法をはじめとする諸法の現業機関として、国民の最低限度の生活確保等に一定の貢献をしてきた。しかし、最近の社会保障、社会福祉の諸制度の改革、地方分権の推進等の中で、そのあり方は大きな転換期を迎えている。また、一方では生活保護受給層の拡大等に対応すべき機関として、そのあり方が改めて問われている。この授業では、以上のような視点から、今後の福祉事務所とその運営のあり方を考察していく。

**講義の内容／授業スケジュール** 福祉事務所とは、現代社会と福祉事務所の運営(第1~2回)  
福祉事務所の成立と歴史的展開(第3~7回)  
福祉事務所を巡る法制度(第8~9回)  
福祉事務所の業務と組織(第10~11回)  
福祉事務所と関連社会資源との連携(第12~13回)  
福祉事務所の専門職員とその役割(第14~15回)  
社会福祉主事の専門性と倫理(第16~17回)  
社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開(第18~19回)  
福祉事務所における自立支援の事例と現状(第20~26回)  
福祉事務所の運営をめぐる課題と動向(第27回以降)

**成績評価の方法** 最終レポート(定期試験期間に提出)80%、その他(出席等)20%

**教科書／テキスト** 宇山勝儀、船水浩行編著『福祉事務所運営論(第3版)』(ミネルヴァ書房)

**参考書** 随時紹介する

履修コード	069001
科目名	社会福祉基礎演習
担当者名	伊藤 秀一

**講義の到達目標(ねらい)** 本演習は、社会福祉学専攻2年生が、3年次以降の専門演習で行う研究の前段階として位置づけられる科目であり、社会福祉領域の様々なテーマを研究していくための入門的、基礎的学習を中心とする。

**講義の内容／授業スケジュール** 学生のテーマ、関心に応じて、クラスをいくつかのグループに分け、それぞれ報告し、討論を行ったり、個別報告を行う。その過程において、プレゼンテーションやディスカッションの指導も含め、資料・新聞記事・文献の収集方法、先行研究論文等のレビューの仕方など、研究を進めていくうえで必要となる一連の予備的作業を体験的に学んでいく。  
〔前期〕第1回：ガイダンス、第2~9回：資料・文献等の収集方法、研究テーマの選定・設定、レジメの書き方、プレゼンテーションなど研究を進めていく上で必要となる基礎的事項の学習、第10から15回：グループ報告  
〔後期〕第1~13回：夏休み期間の課題をもとに提出されたレポートに即して個別報告とグループでのディスカッション、第14・15回：反省会と総括

**準備学習** 授業時に、次回用いるプリント等が配布される場合には、必ず目を通し、不明な点等を調べたり、質問をまとめておく。

**履修上の留意点** 3・4年次に作成する卒業論文を念頭に置いた学習であることを強く意識して受講されたい。

**成績評価の方法** 出席、授業態度、報告のあり方などを踏まえて総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 配布プリント等を用いて行う。

**参考書** 授業時に指示する。

履修コード	069101
科目名	社会福祉基礎演習
担当者名	桐原 宏行

**講義の到達目標(ねらい)** この演習は、社会福祉学専攻の学生が研究を行っていく上で必要不可欠となる基礎的知識・技術の獲得及び問題意識の形成をはかることを目的とするものである。

**講義の内容／授業スケジュール** 〔前期〕  
演習の意義とすすめ方(1回目)、文献検索の方法をはじめとした資料収集方法(2回目)、論文の構成(3回目)、代表的研究方法(文献研究、調査研究、事例研究等)等の理解(4回目)、資料収集と研究テーマの選択(5~8回目)前期プレゼンテーション(9~15回目)  
〔後期〕  
前期に学習した知識・技術を踏まえて、各自が研究課題を設定し、レジメを作成する。個別にプレゼンテーションを行いつつ、議論していく(1~15回目)。

**履修上の留意点** 本演習での取り組みは、後の専門演習、卒業論文へのステップに多大な影響を持つものである。積極的に取り組むことはもちろんのことであるが、学習事項を確実に成果に結びつけることが重要である。なお、演習ではパワーポイントを使用したプレゼンテーションを実施するため、各自がその作成と操作ができることが必要となる。

**成績評価の方法** 出席状況(40%)、前期・後期2回のプレゼンテーション(60%)により評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 演習の中で随時紹介する。

履修コード	068801
科目名	社会福祉基礎演習
担当者名	佐藤 光正

講義の到達目標(ねらい)	社会福祉専攻の学生が専門分野を学ぶ上で必要な基礎的事項について広く学習する。
講義の内容／ 授業スケジュール	3年次の「社会福祉専門演習」にスムーズに移行できるよう、広く福祉関連を学び、その中で自分が今後深めたい「関心テーマ」を見つけ出せるよう、また学んだことを論文としてまとめるにあたっての準備を行う。 (1)オリエンテーション (2)～(14)ビデオ教材および新聞等の教材（「切抜き速報福祉ニュース」障害福祉編・高齢福祉編）を通して“感じる（反応する）自分というツール”を磨く演習 *ビデオの内容のマッピング *学びや気づきのアウトプットメモ (15)個別面接 (16)～(25)福祉領域の論文についての理解を深める演習 *事実と意見 *論文のノウハウ *先輩たちの卒論 (26)～(29)自分の意見を発表する演習 *グループディスカッション *プレゼンテーション (30)個別面接
履修上の留意点	より効果的に演習を行うために、授業内でいくつかの約束事をする。
成績評価の方法	出席状況・日常の課題に対する取り組みの状況及びテスト、提出されたレポートの内容などを勘案して評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて随時紹介する。
関連リンク	<a href="http://www.mhlw.go.jp/">http://www.mhlw.go.jp/</a>

履修コード	068901
科目名	社会福祉基礎演習
担当者名	東條 光雅

講義の到達目標(ねらい)	本演習は、専門演習へ入る前の導入的位置付けであり、資料収集の仕方、資料のまとめ方、分析の仕方、発表の仕方等を実際に体験しながら体得してもらおう。
講義の内容／ 授業スケジュール	履修学生の研究関心によりクラスを小グループ（3～4名）に分け、グループ研究課題を設定してもらおう。前期終了時点と後期終了時点の2回、グループ毎の研究報告をしてもらう。演習であり、グループ活動でもあるので、出席は非常に重視する。 こうした作業の過程で、研究課題の設定の仕方、文献検索の仕方、研究のまとめ方、各種機器の使い方、発表の仕方等の指導を行う。
履修上の留意点	出席は勿論、演習であるから自主的・主体的・積極的な参加を重視する。 研究報告会では、エクセルやパワーポイントを使うことになるので、1年次の「情報処理論」の授業でしっかりと会得しておくこと。
成績評価の方法	評価は、クラスワークへの出席率、討議への参加度・貢献度、年2回の研究報告会の発表内容等により、総合的に行なう。
教科書／テキスト	特には指定しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	062801 062802
科目名	社会福祉原論
担当者名	伊藤 秀一

講義の到達目標(ねらい)	社会福祉は、かつて、慈善事業、社会事業と呼ばれていたものが、今日では、社会を構成する「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日的貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。 本講では、社会福祉の理念、概念、歴史、制度等広く概観することを目的とする。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、社会福祉の基礎知識を整理するとともに、制度的改革の続く社会福祉の今日的な動向と課題についても把握する。
講義の内容／ 授業スケジュール	〔前期〕 第1回：ガイダンス、第2～4回：社会福祉の理念と概念、第5～10回：社会福祉制度の発展過程(イギリス及び日本)、第11～13回：社会福祉のしくみ、第14・15回：学生による意見発表会とまとめ 〔後期〕 第1・2回：福祉政策におけるニーズと資源、第3～10回：福祉政策の課題(視聴覚機材による各分野の動向把握を含む)、第11・12回：福祉政策の構成要素、第13・14回：福祉政策と関連政策及び相談援助活動、第15回：総括
準備学習	授業の最後に、次回の講義で取り上げるテーマ及びテキストでの該当箇所を指定するので、事前に目配りしておく。できれば疑問点や質問事項を用意されたい。
履修上の留意点	講義の内容は極めて広範囲にわたるので、指定されたテキスト以外の参考文献等を活用しながら各自学習を深めてほしい。
成績評価の方法	評価は、前期・年度末の定期試験と出席状況を勘案して行う。
教科書／テキスト	塩野・福田編著『現代社会と福祉(社会福祉士シリーズ4)』弘文堂、2009年、2500円＋税
参考書	随時紹介する。
その他	ビデオ教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

履修コード	070011
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	荒井 浩道

講義の到達目標(ねらい)	この授業では、研究テーマの選定、研究計画の立案、研究計画書作成等の一連の研究方法の習得を目指し、次年度の卒業論文に繋がります。
講義の内容／ 授業スケジュール	この授業では、研究テーマの選定から、研究計画書作成まで指導します。各自の研究計画に沿って、プレゼンテーションやディスカッション、個別指導を通して問題関心を深めていきます【通年】。またゼミ合宿【夏季、冬季】において、研究成果を発表します。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、研究計画書等により総合的に評価します。
教科書／テキスト	特に指定しません。
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	069501
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	伊藤 秀一

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文で扱いたいテーマを選定する際の留意事項を学習するとともに、報告・討論をとおして各自の問題意識の深化を図ることを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	狭い意味の社会保障の分野だけでなく、社会福祉を広く解して、その中から、各自のテーマを自己の意志で選択し、それぞれの考究を進めることとしたい。前期は、討議のための共通基盤をつくっていくために適当なテキスト・文献以外にも新聞記事等を使用し、これを共同で解読する。その後、後期において、具体的な卒論テーマを設定し、卒論作成への準備に入っていく。
準備学習	授業時に、次回討議するためのプリントやレジメが配布される場合には必ず目を通し、疑問点、意見、質問等をまとめておく。
履修上の留意点	ゼミを「出る杭を育てる」という方針で考えたいので、学生には主体的・積極的な学習への取り組みが要求される。
成績評価の方法	出席状況をはじめ、報告、討論への参加等、クラスワークのあり方をもとに総合的に評価する。
教科書／テキスト	授業開始時にゼミ生と協議して決定する。
参考書	随時紹介する。
その他	3・4年生合同のゼミ合宿を年2回(夏と春)実施する。

履修コード	070001
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	川上 富雄

講義の到達目標(ねらい)	この授業では社会福祉研究を実施していくうえで求められる、研究テーマの選定、研究計画の立案、文献研究、調査研究、実践研究、研究計画書作成等の一連の研究方法の習得を目指し、次年度の卒業論文に繋がっていきます。
講義の内容／ 授業スケジュール	この授業では、各自の研究テーマの選定から、研究計画書作成まで指導します。各自の研究計画に沿って、年間数回のプレゼンテーションやディスカッション、個別指導を通して問題関心を深めていきます【通年】。年度末に提出を求める研究計画書作成を目指し、次年度の卒業論文に繋がっていきます。また、ゼミ合宿において、研究の途中経過の報告を行います。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、研究計画書等により総合的に評価します。
教科書／テキスト	特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書	授業のなかで随時指示します。
その他	3・4年生合同のゼミ合宿を実施します。

履修コード	069801
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	桐原 宏行

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文を作成するために必要とされる基礎的事項(文献研究、調査研究、事例研究、実験研究等の研究方法)の習得を目指す。演習では各自が研究課題を決定し、年間研究スケジュールを設定して、それに沿って成果を数回に分けて発表し、議論を通して問題意識を深めていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習では、障害者及び特別なニーズのある子どもの福祉(子どもの発達保障の問題も含む)に関する諸問題を中心に取り扱っていく。具体的には「障害児・者の福祉サービス」「所得保障」「QOL」「家族支援」「地域支援」「バリアフリー」「福祉教育」などの問題の中から、各自が研究課題を選択、決定し、研究を進めていくこととなる。具体的スケジュールは、前期が文献の探し方・読み方(1~2回目)、論文構成について(3~4回目)、課題の作成とプレゼンテーション(5~15回目)。後期が研究内容のプレゼンテーション(1~15回目)
成績評価の方法	出席状況(50%)、レポートの作成と年間数回のプレゼンテーション(50%)により評価する。
参考書	『社会福祉研究の課題と方法』(田研出版)2,200円

履修コード	069701
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	佐藤 光正

**講義の到達目標(ねらい)** この演習では、学生それぞれの卒論“関心テーマ”が“研究テーマ”へと進化し、いくつかのプロセス(ゆれ)を経て、次年度に「卒業論文(成果)」としてまとまる一連の思考過程(考え方)と技術習得(問題解決)のための基礎指導を中心に行う。  
年度末に、絞り込んだ各自のテーマを論文形式でA4用紙10枚程度に仕上げるのが目標。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期は、各自の関心領域からテーマを絞り込むための各演習および論文作成の基礎(1)を演習する。後期は、各自のテーマを深めるために必要な演習および論文作成の基礎(2)を行う。中間報告、ゼミ合宿(9月と3月を予定)では各自の成果のプレゼンテーションを行う。  
(1)オリエンテーション  
(2)～(4)各自の卒論関心テーマ報告  
(5)～(14)関心から卒論テーマへの絞り込み方・論文作成の基礎(1)  
(15)中間報告会  
(16)～(30)卒論テーマの深め方・論文作成の基礎(2)

**履修上の留意点** 個別の指導と平行してグループでのディスカッションを中心にゼミを展開するため、主体的な参加が必須である。また各自の卒論関心テーマへの熱い思いと地道な作業を軸に、教員や文献等を有効に活用してほしい。

**成績評価の方法** 授業での平常点(出席状況、授業態度、課題提出状況)もさることながら、年間をとおしたプロセスの中で“ほう(報告)れん(連絡)そう(相談)”をしながら卒論作成の準備が行われたか、またゼミ運営への貢献度も合わせて評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 必要に応じて随時紹介する。

履修コード	069601
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	東條 光雅

**講義の到達目標(ねらい)** 本演習では、福祉関連雑誌、新聞記事、インターネット等を活用しながら、高齢者保健福祉の制度・サービス・処遇に関する基礎的な知識の修得を目指す一方、研究報告会や集団討議等を通して、自己表現能力を磨いてもらう。

**講義の内容／授業スケジュール** 高齢者福祉ならびに処遇方法論を主テーマとするゼミではあるが、4月にゼミ履修学生の意向を確認した上で、1年間の進め方等を決定する。基本的には、演習であるので、学生の主体的な研究活動が中心となる。したがって、主体的・積極的な姿勢が求められる。夏と春にそれぞれゼミ合宿を行い、各自の研究報告を行ってもらう。  
なお、12月10日までに、各自の研究テーマで400字×30枚のゼミ論文を提出してもらう。

**履修上の留意点** 出席ならびに積極的なコミットメントを重視する。なお、年2回(9月と3月頃)の合宿研修を実施している。

**成績評価の方法** 評価は、クラスワークやゼミ合宿への出席率、討議への参加度・貢献度、ゼミ論文の内容等により、総合的に行う。

**教科書／テキスト** 特には指定しない。

**参考書** 適宜紹介する。

履修コード	069901
科目名	社会福祉専門演習I
担当者名	長尾 譲治

**講義の到達目標(ねらい)** この演習では、保健や福祉に関する身近で興味深いテーマを題材として、ゼミを展開してゆく。いのちと生活に関連した社会問題に関心を深めるとともに、これらの問題の検討を通して客観的な思考方法とコミュニケーション能力、わかりやすい文章の書き方を身につけていく。具体的には、ディベートやディスカッションを通していろいろなテーマと一緒に考えながら、ゼミ論・卒論に向けての準備を行っていくことになる。ゼミの運営は、学生の意見・希望を反映させながら、皆の合意の上で進めていく。このような「グループワーク」としての運営の性格上、授業への出席と作業への主体的参加が何より求められる。

**講義の内容／授業スケジュール** ①オリエンテーション(1回目)②ディベート(2～10回目)③週間福祉ニュース(11～15回目)④就職面接ロールプレイ(16～18回目)⑤先輩からの就職活動体験談(19～20回目)⑥履歴書・小論文添削指導(21～25回目)⑦ゼミ論個別面談(26～30回目)

**履修上の留意点** 本ゼミは、グループ作業が中心となる。上述のように、出席と各自の主体的参加がゼミの成否を左右する。楽しく充実したゼミにするために、協力的に行動してほしい。

**成績評価の方法** 毎回の授業への参加が前提となる(出席点が基本。※配属実習中は公欠扱い)。出席点に、作業への参加状況とゼミ論の内容を加味して評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。必要な資料を随時配布する。

**参考書** 「週刊 福祉新聞」(福祉新聞社)  
「地域福祉情報」(ジャパン通信情報センター)

履修コード	061911
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	荒井 浩道

**講義の到達目標(ねらい)** この授業では、研究計画書に基づいた卒業論文の作成を目指します。

**講義の内容／授業スケジュール** この授業では、研究計画書に基づいた卒業論文の作成を指導します。各自の研究計画に沿って、プレゼンテーションやディスカッション、個別指導を通して、卒業論文の作成を目指します[4月-12月]。またゼミ合宿[夏季]、卒業論文発表会[1月]を実施し、研究成果を発表します。

**履修上の留意点** 授業への主体的参加を期待します。

**成績評価の方法** 出席、プレゼンテーション、ディスカッション、卒業論文等により総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 特に指定しません。

**参考書** 授業のなかで随時指示します。

履修コード	070401
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	伊藤 秀一

講義の到達目標(ねらい)	3年次の専門演習Iの学習成果を踏まえ、各自のテーマにもとづき、報告と討論をとおして卒業論文作成の指導を行う。
講義の内容／授業スケジュール	各自のテーマにそった報告をもとに、ゼミメンバー間での討議をとおして考察を深めていく。なお、全員参加を前提とする年2回のゼミ合宿においても卒業論文作成のための集団討議および個別指導を行う。なお、後期は国家試験対策として福祉新聞などの新聞記事等も活用し受験対策の学習時間も設ける。
準備学習	報告と討論を主体とした授業となるため、先行研究論文の読解やプレゼンテーションのあり方に留意して準備されたい。
履修上の留意点	授業への積極的・主体的参加が要請される。
成績評価の方法	出席状況をはじめ、報告、討論への参加等、クラスワークのあり方をもとに総合的に評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	個々のゼミ生に応じ随時紹介する。

履修コード	070201
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	川上 富雄

講義の到達目標(ねらい)	「地域ケアシステム構築と地域を基盤としたソーシャルワーク」「社会的な援助が必要な人々への社会福祉・ソーシャルワークの役割」をゼミ共通の問題意識としながら、分野論や制度論にこだわらず、横断的・俯瞰的(ふかんでき)・隙間的(すきまでき)視点で各自テーマを見つけ、それへの支援のあり方やシステムを発送豊にかつ利用者・住民の立場で考察し、報告と討論を通して問題意識を深め、卒業論文の作成に結びつけていきます。
講義の内容／授業スケジュール	ノーマライゼーション、ICF、地域自立生活支援、権利擁護、社会福祉協議会、NPO、民生委員・児童委員、地域ケアシステム、地域福祉計画、セルフヘルプグループ(当事者組織)、住民参加・住民福祉活動、ボランティア活動、施設の社会化、福祉情報、地域福祉援助技術(コミュニティ・ソーシャルワーク)、地域包括支援センター、といったキーワードに関連づけながら広範な社会問題に関心を向けてテーマ設定を行い、各自の選んだ研究テーマにそった報告と対論を通して問題意識を深め、卒業論文の作成に取り組みます。また、ゼミ合宿において、研究の途中経過の報告を行います。
履修上の留意点	授業への主体的参加を期待します。
成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、研究計画の進捗等により総合的に評価します。
教科書／テキスト	特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書	授業のなかで随時指示します。

履修コード	070601
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	桐原 宏行

講義の到達目標(ねらい)	この演習では、前年度の「社会福祉専門演習I」での各自の成果を基礎として、卒業論文の作成・提出に向け必要となる事項に関して学習をすすめるものである。具体的には、それぞれの設定している課題に沿って、文献・資料分析、調査や事例のデータ分析を行い、その結果に関して議論を重ねつつ展開していく。
講義の内容／授業スケジュール	卒業論文作成のための個別指導、及び研究内容のプレゼンテーション(前期・後期ともに1~15回目)。
成績評価の方法	研究への取り組み状況、研究進行過程での数回のプレゼンテーションを総合して評価する。
参考書	研究の進行に応じて、随時指示する。

履修コード	070301
科目名	社会福祉専門演習II
担当者名	佐藤 光正

講義の到達目標(ねらい)	必修科目である卒業論文の個別指導が中心となる。「社会福祉専門演習I」で土台を固めた各自のテーマが、卒業論文としてより完成するよう、またその過程で良質ないろいろな気づきやスキル習得ができるよう必要な指導を行う。
講義の内容／授業スケジュール	前期・後期ともに各自の卒論進行状況に合わせた個別指導を中心に行う。また全体での卒論中間報告会(随時)、提出後の発表、ゼミ合宿(予定)などを行う。 (1)オリエンテーション (2)各自の卒論進行状況報告 (3)~(10)個別指導 (11)中間報告会 (12)~(20)個別指導 (21)中間報告会 (22)~(29)個別指導 (30)発表会
履修上の留意点	各自の卒論関心テーマへの熱い思いと地道な作業を軸に、教員や文献等を有効に活用してほしい。
成績評価の方法	卒論自体の出来もさることながら、年間をとおしたプロセスの中で“ほう(報告)れん(連絡)そう(相談)”をしながら卒論作成が行われたか、またゼミ運営への貢献度も合わせて評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	各自の研究テーマに合わせて随時紹介する。



履修コード	065001 065002
科目名	社会保障論
担当者名	長尾 譲治

**講義の到達目標(ねらい)** 本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、ソーシャルワーカーを目指す皆さんにとって必要で十分な社会保障制度に関する実践的知識を習得すること、及びソーシャルワークの現場においてその知識を生かす応用能力を身につけることを第一の目的としている。

社会保障制度は、一見すると複雑・多岐にわたっており、わかりづらいつらと感じる学生が多いのも事実である。しかし、社会保障は人間の基本的なニーズに対応したものであって、原理・原則は単純明快である。社会保障論の学習にあたっては、まずその原理・原則を理解した上で、制度上の例外を身につける方法が有効である。

講義では、マンガやドラマに出てくるおなじみの登場人物とその生活場面などの身近な実例に当てはめ、そこで出てくる社会保障制度を解説するなど、具体例を通じて実践的な社会保障の知識を身につけていく。また、社会保障の各制度の現状はどうなっているのか、これからどうしていくべきなのかについて、国民の福祉の維持・推進の役割を担う福祉専門職の立場から、考察していきたい。

**講義の内容／授業スケジュール**

(1) 社会保障とは(社会保障の必要性、日本の社会保障制度の体系など) (1回目)

(2) 各制度の詳細な解説

①医療保険制度(2~5回目) ②年金保険制度(6~11回目) ③労働保険制度(雇用保険、労災保険)(12~16回目) ④介護保険制度(17~20回目) ⑤民間の保険(生命保険、損害保険、その他の保険)(21回目)

(3) こんなときどうする? -私たちのライフサイクルと社会保障-

①就職したら(22回目) ②妊娠・出産・育児とその支援(23~24回目) ③病気や障害状態になったら(25~26回目) ④寝たきりや認知症になったら(27回目) ⑤ターミナル・ケアを受けるには(28回目)

(4) 各国の社会保障制度(29回目)

(5) 社会保障制度の現状と課題(30回目)

**成績評価の方法** 学年末試験の成績に、出席状況等を加味して評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しないが、必要に応じて参考書等を紹介する(授業は毎回の詳説プリントを通じて行う)。

**参考書** 週刊社会保障編集部編『社会保障便利事典』(法研)  
その他、随時紹介する。

履修コード	065441
科目名	就労支援サービス
担当者名	桐原 宏行

**講義の到達目標(ねらい)**

- ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する
- ・就労支援に係る組織、団体、及び専門職の役割について理解する
- ・就労支援分野における連携方法について理解する

**講義の内容／授業スケジュール**

第1回: 授業のねらい・授業のすすめ方について

第2回: 労働の意義・動機づけの諸理論

第3回: キャリア発達と就労支援「キャリア発達の理論と発達課題」

第4回: 雇用・就労の動向「労働市場の動向」「就労支援対象者の雇用実態」

第5回: 労働法規①「基本的労働法規の概要」

第6回: 労働法規②「就労支援に関連する諸法律の概要」

第7回: 就労支援制度の概要①「低所得者の就労支援」

第8回: 就労支援分野の実務①「ハローワークを中心とした機関連携方法」

第9回: 就労支援制度の概要②「障害者福祉施策における就労支援」

第10回: 就労支援分野の実務②「障害者雇用施策における機関連携方法」

第11回: 就労支援制度の概要③「障害者雇用施策における就労支援」

第12回: 就労支援分野の実務③「障害者福祉施策における機関連携方法」

第13回: 就労支援サービスの実施体制①「組織及び団体の役割と実際」

第14回: 就労支援サービスの実施体制②「専門職の役割と実際」

第15回: 授業内試験

**履修上の留意点** 本科目は、社会福祉士法の改正により新設された科目である。平成21年度以降の入学で社会福祉士受験資格取得予定者は履修しなければならない。また、平成20年度以前入学者については、履修の必要はないものの、国家試験においては本年度から実施されるため、履修することが望ましい。

本科目の履修に当たっては、「障害者福祉論」「公的扶助論」の単位を取得していることが望ましい。

**成績評価の方法** 授業内試験及びレポートの提出70%、出席点30%

**教科書／テキスト** 福祉臨床シリーズ編集委員会編、桐原宏行責任編集『社会福祉士シリーズ18 就労支援サービス』、弘文堂  
2,625円 ISBN978-4-335-61088-2

**その他** YeStudyを活用します。

履修コード	065421 065422
科目名	障害者福祉論
担当者名	桐原 宏行

**講義の到達目標(ねらい)**

- ・障害の本質及び障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解する
- ・障害者福祉制度の発達過程について理解する
- ・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者福祉に係る他の法制度について理解する

**講義の内容／授業スケジュール**

第1回：本科目のねらい・進め方について  
 第2回：障害とは何か①（身体障害の理解）  
 第3回：障害とは何か②（知的障害・発達障害の理解）  
 第4回：障害者福祉の理念  
 第5回：障害の概念と定義  
 第6回：障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢  
 第7回：障害者福祉制度の発達過程  
 第8回：障害者基本法  
 第9回：障害者自立支援法①（制度移行）  
 第10回：障害者自立支援法②（制度解説1）  
 第11回：障害者自立支援法③（制度解説2）  
 第12回：障害者自立支援法④（制度解説3）  
 第13回：障害者福祉関連法の概要①（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法）  
 第14回：障害者福祉関連法の概要②（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法）  
 第15回：授業内試験

**履修上の留意点**

本科目は、社会福祉士法の改正により変更された科目である。平成21年度以降入学者（平成20年度以降の入学者で単位未修得者も含む）で社会福祉士受験資格取得予定者は履修しなければならない。なお、平成20年度以前の履修者で、同一名称科目「障害者福祉論（4単位科目）」をすでに履修し単位を取得した者は再履修できないが、法改正で科目内容が改正されており、本年度の社会福祉士国家試験から「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目で試験が実施されるため、その対策には十分注意する必要がある。履修者は、「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」の単位を取得していることが望ましい。

**成績評価の方法**

授業内試験又はレポートの提出70%、出席点30%

**教科書／テキスト**

福祉臨床シリーズ編集委員会編 日比野清、大熊信成、建部久美子責任編集、『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、弘文堂、2,625円 ISBN978-4-335-61084-4 C3347

**その他**

YeStudyを活用します。

履修コード	063001
科目名	情報処理論
担当者名	軽部 幸浩

**講義の到達目標(ねらい)**

現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者も独力でコンピュータを活用して社会福祉学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。

**講義の内容／授業スケジュール**

授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。

- 【前期】
- [1] 情報処理の基礎
  - [2] Internet利用の実際と注意（マナーやモラルについて）
  - [3] 電子的コミュニケーション（電子メールの利用法）
  - [4] タッチタイピングの完全習得（タイピングソフトを利用）
  - [5] 情報の検索（WWWの利用法）
  - [6～12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
  - [13～15] プレゼンテーションの実際（プレゼンテーションの基礎技術）
- 【後期】
- [1] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
  - [2～15] スプレッドシートの習得（MS-Excelによる集計、グラフ、データベース）

**履修上の留意点**

原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくとも年間約20数回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2～3回（1回平均約2時間程度）の実習が必要となる（昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである）。

**成績評価の方法**

出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進度についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。

**教科書／テキスト**

授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。

**参考書**

授業中に最新のものを指示する。

**その他**

年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回（1回1時間程度）の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。

【授業Web】{<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>}, <http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>}

【e-Learning】{<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	063101
科目名	情報処理論
担当者名	軽部 幸浩

**講義の到達目標(ねらい)** 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して社会福祉学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。

**講義の内容／授業スケジュール** 授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。

【前期】

- [1] 情報処理の基礎
- [2] Internet利用の実際と注意（マナーやモラルについて）
- [3] 電子的コミュニケーション（電子メールの利用法）
- [4] タッチタイピングの完全習得（タイピングソフトを利用）
- [5] 情報の検索（WWWの利用法）
- [6～12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
- [13～15] プレゼンテーションの実際（プレゼンテーションの基礎技術）

【後期】

- [1] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
- [2～15] スプレッドシートの習得（MS-Excelによる集計、グラフ、データベース）

**履修上の留意点** 原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2～3回（1回平均約2時間程度）の実習が必要となる（昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである）。

**成績評価の方法** 出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進度についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。

**教科書／テキスト** 授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。

**参考書** 授業中に最新のものを指示する。

**その他** 年間20回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回（1回1時間程度）の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。

【授業Web】 {<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>, <http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>}

【e-Learning】 {<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	063201
科目名	情報処理論
担当者名	軽部 幸浩

**講義の到達目標(ねらい)** 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、大学生にとってのコンピュータは、知的作業をおこなう上で最低限習得しなければならないツールである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験したものも多いと思うが、本講義では大学で必要とされる知的生産を支援するためのコンピュータ利用法を徹底的に習得する。大学に入ってからコンピュータをはじめ本格的に利用する学生もまだいると思われるので、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して社会福祉学のレポート等を作成することができる能力を培う。また、自分の得た結果や事実、考えを表現するための方法を習得する。なお、パーソナルコンピュータを個人で所有することで理解の程度が飛躍的に向上するであろう。余裕があれば購入することを薦める。

**講義の内容／授業スケジュール** 授業はすべて実習形式でおこなう。1つのテーマに数時間を当て、毎回授業内でおこなう課題と授業外でおこなう簡単な課題の提出を求める。具体的な内容は次のとおりである。

【前期】

- [1] 情報処理の基礎
- [2] Internet利用の実際と注意（マナーやモラルについて）
- [3] 電子的コミュニケーション（電子メールの利用法）
- [4] タッチタイピングの完全習得（タイピングソフトを利用）
- [5] 情報の検索（WWWの利用法）
- [6～12] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
- [13～15] プレゼンテーションの実際（プレゼンテーションの基礎技術）

【後期】

- [1] 大学生として必要なドキュメント処理能力の習得（MS-Word）
- [2～15] スプレッドシートの習得（MS-Excelによる集計、グラフ、データベース）

**履修上の留意点** 原則的に遅刻、欠席は認めない。欠席を年間授業回数の1/3以上おこなった時点で、期末試験の受験資格を失う。また、遅刻は2回で欠席1回とする。授業内容の性格上、授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足する。学校行事等との衝突がなくても年間約20回程度の授業しかおこなうことができない。そのため、本格的にコンピュータを応用するためには絶対的に実習時間が不足する。したがって週あたり2～3回（1回平均約2時間程度）の実習が必要となる（昨年度授業アンケートの結果では、週平均約2時間程度の実習をおこなっていたようである）。

**成績評価の方法** 出席および課題の提出を前提とし、前期・後期末におこなう筆記試験と併せて総合的に評価する。経験則から連続2回欠席すると授業の進捗についていけなくなる。なお、遅刻は認めない。出席確認後の入室は認めるが、出席とはならないので注意する。連続3回以上欠席したものは、その時点で期末試験の受験資格はない。なお、この科目は1年次必修科目であるため単位の認定を受けられない者は、翌年度の履修となるが、機器の関係で実習装置を与えられない可能性がある。したがって1年次に履修を完了することを希望する。

**教科書／テキスト** 授業中に適宜紹介する。教材は、授業の中で全て配布する。配布された資料は、授業に際して常に持参してくること。

**参考書** 授業中に最新のものを指示する。

**その他** 年間20数回程度の講義時間しかないため絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回（1回1時間程度）の自習が必要となり、それに対応する課題が出される。自習には、4号館にある総合情報センタ1Fの自習室を利用する。独自に購入するのであれば、MS-Windows対応のパソコンでMS-WindowsとMS-Officeが導入されているものを購入するとよい。詳細については開講時に解説する。

【授業Web】 {<http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>, <http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/>}

【e-Learning】 {<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>}

履修コード	065701 065702
科目名	女性福祉論
担当者名	堀 千鶴子

**講義の到達目標(ねらい)** この講義では、ジェンダーの視点から女性福祉論を展開する。ジェンダーとは社会的・文化的に規定された性別であり、ジェンダーのアンバランスが歴史的にも女性の生活問題・生活困難の背景となっており、ジェンダーの視点に立つことは問題の理解に大きく寄与するものである。講義では、特に婦人保護事業を中心とする。婦人保護事業を歴史的に把握すると共に、対象者の変化を理解し、現代的課題を明らかにすることから、女性福祉を考える。

**講義の内容／授業スケジュール**

1. ジェンダーの視点とは  
ジェンダー・女性学・フェミニズム等の用語の登場の背景を理解し、社会福祉に導入する意味について理解する
2. 女性福祉の定義・対象理解
3. 「女性に対する暴力」とは  
・定義、内容・取り組みの動向 ・ドメスティック・バイオレンス についての理解
4. 婦人保護事業の歴史
5. 婦人保護事業の動向

**成績評価の方法** 授業内レポート（10%）、授業内試験（20%）、夏期課題（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価を行う。

**教科書／テキスト** 林千代編著『女性福祉とは何か』（ミネルヴァ書房）2004年

**参考書** 講義内に紹介する。

履修コード	066521 066522
科目名	心理学（福祉）
担当者名	高橋 良博

講義の到達目標(ねらい)	本講義のねらいとして以下の項目を目標としている。 1. 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得、および日常生活と心の健康についての理解。 2. 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。 3. 援助を要する人々とかかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。
講義の内容／ 授業スケジュール	1. 講義についてのオリエンテーション 2. 心理学の定義・心理学の領域・心理学研究法 3. 欲求・動機づけ 4. 感情・情動 5. 感覚・知覚・認知 6. 学習・記憶・思考 7. 知能・創造性 8. 人格 9. 適応と不適応 10. 発達段階と障害発達 11. 発達課題と高齢期 12. 発達の障害と発達援助 13. 心理的援助技術の概要 (1) 14. 心理的援助技術の概要 (2) 15. 試験 (上記の講義スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合もある。)
履修上の留意点	履修者は、講義中は私語をつつしみ静粛を保つこと。講義中、私語などの迷惑行為が目立つ場合、教場外への退出をもとめることもある。
成績評価の方法	筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）などを得点化して総合的に評価を行う。評価される講義への出席回数は全講義回数の3分の2以上を前提とする。
教科書／テキスト	福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座2『心理学理論と心理学的支援—心理学』（中央法規）
参考書	講義中、指示する。

履修コード	066601
科目名	心理検査法
担当者名	稲富 正治

講義の到達目標(ねらい)	多くの心理検査（性格傾向を見る検査、ストレスを観る検査、人間関係を観る検査など）の体験を通しながら、その結果から自分を知り、また人を知り、そして臨床において人への関わりとはどういうことかなどを学ぶことを目的としている。
講義の内容／ 授業スケジュール	心理検査には「質問紙法」「投影法」「作業検査法」などがありますが、最初は、広く使われており、施行も簡単な質問紙法の中で「Y-G性格検査」や「TEG（人間関係のパターンを知る検査）」などから始まり、性格傾向だけでなく、自分のストレス状況などを知る検査（CMI）などを通し、自己理解を深め、同時に人を知ることとはどういうことかなどを考える材料にしてもらいたいです。後半には知能検査（「ウェクスラー式知能検査」）を学生同士取り合います。ただ机に向かって質問に答えるだけの検査から、人と向き合いながら取り合う検査の難しさ、重要性などを学んで欲しいと思っています。検査用紙以外にも、絵画を用いた絵の分析や自己紹介の文章などから自分の傾向を知ったり、いろんな角度から自分を観察していきたいと思います。1年を通して、全部で7～8種類の心理検査を行いますが、コミュニケーショントレーニングの一環としてのエクササイズ（ゲーム的な要素を持つもの）の体験を通してコミュニケーションも大事にしていきたいと思っています。
履修上の留意点	基本的に出席を大事にします。実習などは別として、なるべく出席してもらい、一緒に臨床を考えて行きたいと思っています。 また、心理検査代として、1年間で実費1500円ほどかかりますので、ご了承下さい。
成績評価の方法	後期テストの成績と出席日数を点数化し、合計して成績を出します。基本的には、授業での心理検査を体験し、結果を出しておけば、答えられる問題です。
教科書／テキスト	特にありません。必要なものは適時配りたいと思います。

履修コード	063481
科目名	精神医学（福祉）
担当者名	浅野 誠

講義の到達目標(ねらい)	精神医療が対象とする疾病は決して少なくない。しかし、ICDとかDSMといった国際標準の診断分類が使用されるようになってから、診断が細部に厳密になり、細分化し網羅的となり、むしろ、初心者には疾病のイメージがつかみづらくなっている。本授業において、基本的疾病について、イメージできる力を身につけ、疾病に遭遇したときに適切な対応ができるようになることを学習の目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	1 精神の疾病について総論 生物学的説明（脳科学的な説明） 2 精神症状について 3 疾病各論 統合失調症について 感情病について（躁うつ病） 神経症（パニック障害、強迫性障害、解離性障害など）について 薬物性精神病（アルコール、覚せい剤 など）について 認知症について その他（脳炎 梅毒 エイズなどによる）精神の疾病について 4 精神科の治療について 薬物療法について 精神分析療法について 認知行動療法について 作業療法について 5 人はなぜ精神を病むのか（文明論的歴史論的な考察）
準備学習	毎回資料を渡しますので、あらかじめ読んで授業に望んでください
履修上の留意点	脳神経の構造についてある程度把握しておくこと
成績評価の方法	学期末試験（6割）と授業内で提出を求める課題（2割）および出席状況で評価します。
教科書／テキスト	「精神医学ハンドブック」 山下格 著、日本評論社
参考書	「海馬」池谷裕二 糸井重里 著 朝日出版 「もやしもん」 石川雅之 著 「モンスター」 浦沢直樹 著 「デトロイトメタルシティ」 若杉公徳 著 芥川龍之介全集

履修コード	068501
科目名	精神科リハビリテーション学
担当者名	城田 晴夫

**講義の到達目標(ねらい)** この授業では、通年を通して精神科リハビリテーションに必要な視点、精神科医療保険リハビリテーションのサービスを利用する方々に専門家はどうか関わっていったら良いのか、精神科リハビリテーションでは、精神疾患をどのように捉えているのか、そして精神科リハビリテーションとは何かを講義していきます。

**講義の内容／授業スケジュール** 精神科で働いていけるように、臨床現場の経験を活かして、知識を覚える授業というよりも、実際に「わかる」授業を展開していきたい。その為、当事者の方の体験記も読んでもらうこととなります。  
前期(2~10)は、精神医学の歴史からスタートして、精神科リハビリテーションでは精神疾患をどのように捉えているかを扱い、その為どのような基本的なアプローチをとるのかを説明する。(11~15)は、臨床心理学的な視点を扱って、いかに信頼関係を築いていくのかを扱う。  
後期は、(16~22)で、関係の築き方を扱い、(23~30)で、障害について、精神科リハビリテーションとは何かを扱っていく。特に通年で「心理社会的リハビリテーション」を理解します。

**準備学習** 講義で扱った内容に関連する書籍は積極的に各自読んでいってほしい。  
また参考図書の内容中に紹介もするので、それも読んでいくと一層の理解が深まります。

**履修上の留意点** 実習等で授業を止むを得ず欠席した場合は必ず出席した学生より尋ねて講義内容を空白にしないようにしてもらいたい。毎回どれも重要な内容はかりで、講義は連続ものなので出来る限り休まないように心懸けてほしい。  
実習で授業を長期的に休む場合は特に配布プリントの手配を出席している友人に依頼し確保しておくこと。間がない配布プリントがないと理解は進まない。  
また比較的配布プリントが多いので各自ファイリングをきちんとして整理していくをお願いしたい。

**成績評価の方法** 出席重視とレポート提出そして、学期末試験の3本立てで評価します。

**教科書／テキスト** 国家試験を受験する学生は「精神科リハビリテーション学(中央法規)」を必ず買うこと。教科書については、講義の初日で説明します。但し、中心は授業で配布するプリントが中心になると思います。

**参考書** 「精神障害リハビリテーション」野中猛 中央法規

履修コード	066701
科目名	精神保健学
担当者名	坂村 雄

**講義の到達目標(ねらい)** 精神保健とは精神の健康に関する公衆衛生であり、狭義には精神疾患の予防と治療、リハビリテーション、広義には精神的健康の保持と増進を目的とする諸活動である。精神医学、心理学等、精神保健に関するバックグラウンドは広いので、精神障害、異常心理などの解説をしながら、理解を深められる様に講義するが、精神保健福祉士の実践にも役立つ様、臨床的内容とし、単なる学問的知識でなく、実際に現場で働いていくために必要な知識を与えたいと思っている。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期は精神的健康とはどのようなことか、精神保健を学んでいく上で必要な精神症状、精神疾患の要点、精神的対応の現状について主に学び、後期は、家庭、学校、職場等各環境において問題となっているテーマにつき具体的に検討する。

**成績評価の方法** 出席、レポート、試験などを総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 1) 鹿島晴雄編 2) 『精神保健入門』第2版 3) 八千代出版 4) ￥2900 5) ISBN4-8429-1367-3

履修コード	068601
科目名	精神保健福祉援助演習
担当者名	佐藤 光正

**講義の到達目標(ねらい)** 精神保健福祉士は、精神障害者の保健福祉に関する専門的な知識及び技術をもって、精神障害者の社会復帰、社会参加や自立を促進する相談業務等を担う。そのための具体的な援助技術の習得等を中心に演習を行う。

**講義の内容／授業スケジュール** 精神保健福祉援助実習に必要な演習を行う。  
(1)オリエンテーション  
(2)~(3)利用者の理解  
(4)~(7)コミュニケーション技術  
(8)~(11)ケースワーク援助  
(12)~(14)グループワーク援助  
(15)前期まとめ  
(16)~(19)コミュニティワーク援助  
(20)~(26)ケアマネジメント援助  
(27)~(29)自己点検と自己理解  
(30)後期まとめ

**履修上の留意点** 授業への主体的な参加が必須である。なお履修にあたっては、予め許可された者(前年度に「精神保健福祉援助実習」履修のスクリーニングを受けて許可された者)のみとなる。

**成績評価の方法** 平常点(出席状況、授業態度、課題提出状況等)を中心に総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 必要に応じて随時紹介する。

履修コード	067001
科目名	精神保健福祉援助技術各論
担当者名	上野 容子

講義の到達目標(ねらい)	精神保健福祉援助技術の具体的な方法やそのあり方、倫理感について学ぶ。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1)～(2)・精神障害者の生活状況 (3)～(5)・ケースワークの定義、原理と原則・ケースワークのプロセス・具体的な事例 (6)～(8)・グループワークの定義、原理と原則・グループワークの展開・具体的な事例 (9)～(10)・当事者活動とその支援 (11)～(12)・家族に対する支援 (13)～(17)・コミュニティワークの定義と原則・コミュニティワークの展開プロセス・コミュニティワークの課題・ボランティア活動 (18)～(21)・ケアマネジメントの歴史的背景・ケアマネジメントの定義と構成要素・精神障害者に対する福祉サービスとしてのケアマネジメントの特徴・ケアマネジメントのプロセス・具体的な事例 (22)～(23)・チームアプローチと連携・チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割 (24)～(25)・スーパービジョンの意義と構造
履修上の留意点	・精神保健福祉論、精神医学を履修済みの前提で授業を進めます。 ・グループでの演習をとり入れるので、話し合い、発表、レポートがあります。
成績評価の方法	・演習毎のレポート、平常点（出席状況）
教科書／テキスト	一回目の授業で提示する。

履修コード	068701
科目名	精神保健福祉援助実習
担当者名	佐藤 光正

講義の到達目標(ねらい)	実習は、精神保健福祉士をめざす者にとって大事な体験学習となる。そこでは、まず第一に現場の状況を知りそこで展開される現場での援助とこれまで学習してきた知識としての援助を結びつけて体験的に習得する必要がある。そして自己理解を深めることで、今後自分がめざす精神保健福祉士（精神保健福祉領域のソーシャルワーカー）の基礎を体験的に学ぶ。
講義の内容/ 授業スケジュール	実習に必要なこと、また実習の振り返りをおして学びを深める。 (1)オリエンテーション (2)～(4)実習計画書作成 (5)～(29)実習報告と振り返り 精神障害者と精神医療の理解、OPSW業務の理解、○援助関係のあり方についての洞察 (30)まとめ
履修上の留意点	すでに社会福祉全般の科目及び精神保健福祉に関する基礎的な科目を修めていることを前提とする。なお履修にあたっては、前年度のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。また授業および実習への主体的な参加が必須であることはいうまでもない。
成績評価の方法	授業での平常点（出席状況、授業態度、課題提出状況）もさることながら、年間をおしたプロセスの中で“ほう（報告）、れん（連絡）そう（相談）”をしながら実習が行われたか、また実習先の評価等も総合的に評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて随時紹介する。

履修コード	066801
科目名	精神保健福祉論I
担当者名	佐藤 光正

講義の到達目標(ねらい)	近年、こころの問題は広く国民的問題となっている。ここでは障害者福祉の理念と施策の理解等を踏まえながら、精神障害者の障害特性（疾病と障害の共存）、処遇、特に偏見や差別の歴史を学び現状認識を深め、精神障害と福祉について考える。さらに行政・司法・教育・労働など広範に求められる精神保健福祉についても理解を深める。またそれらの理解をおして精神障害者を生活の視点で支える精神保健福祉士の役割と実践について学ぶ。
講義の内容/ 授業スケジュール	現在、精神保健福祉領域の状況はめまぐるしく変化しているため、板書及び配布資料を中心に最新の情報で授業を進める。必要に応じてビデオ教材等も併用する。 (1)オリエンテーション (2)～(4)精神保健福祉の大きな変化 (5)～(8)障害者福祉の理念と意義 (9)～(12)精神障害者福祉の歴史と理念 (13)～(14)精神障害者の人権 (15)前期まとめ (16)～(18)精神保健福祉士の理念と意義 (19)～(21)精神障害者に対する相談援助活動 (22)～(24)精神保健福祉法・精神保健福祉士法 (25)～(29)その他関連施策 (30)後期まとめ
履修上の留意点	障害ごとの縦割りの援助ではもはや現場では対応できない時代になった今、精神保健福祉士をめざす学生だけではなく、社会福祉士をめざす学生にも履修が望ましい。なお「精神保健福祉論II」とはセットであるため併せての履修が効果的である。
成績評価の方法	平常点（出席状況、授業態度、課題提出状況）および授業中のテストなどにより総合的に評価する。
参考書	必要に応じて随時紹介する。
関連リンク	<a href="http://www.mhlw.go.jp/">http://www.mhlw.go.jp/</a>

履修コード	066901
科目名	精神保健福祉論II
担当者名	佐藤 光正

講義の到達目標(ねらい)	「精神保健福祉論I」とのセット科目である。ここでは偏見や差別のなか地域において、精神保健福祉活動がどのように行われているか、また精神障害者の地域生活の実態を学び、地域における生活支援の重要性を認識する。
講義の内容／ 授業スケジュール	ビデオ教材等を中心に行う。また必要によっては障害当事者や実践家の人たちにも実際に教場に来てもらい、体験的な理解を深める。なおセット科目である「精神保健福祉論I」との関連やその時々タイムリーな話題を臨機応変に扱うこととする。 (1)オリエンテーション (2)～(11)ビデオで見る精神障害者と地域生活支援活動 (12)精神障害者の生活実態～当事者の声～ (13)精神障害をもつ家族の思い～家族の声～ (14)地域における精神保健福祉活動～実践家の話～ ○医療機関、社会復帰施設、○ボランティア活動など (15)まとめ
履修上の留意点	障害ごとの縦割りの援助ではもはや現場では対応できない時代になった今、精神保健福祉士をめざす学生だけではなく、社会福祉士をめざす学生にも履修が望ましい。なお「精神保健福祉論I」とはセット科目であるため併せての履修が効果的である。
成績評価の方法	平常点（出席状況、授業態度、課題提出状況）などにより総合的に評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて随時紹介する。

履修コード	067121
科目名	ソーシャルワーク演習
担当者名	川上 富雄

講義の到達目標(ねらい)	本学では、「相談援助演習」を「ソーシャルワーク演習」及び「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習II」の3科目に分けて指導することとしています。ソーシャルワーク演習では、福祉現場の専門従事者からの話題提供、配属実習修了者との意見交換等を踏まえ、実習を想定した具体的な課題別相談援助事例を取り上げて学び、社会福祉士に求められる総合的・包括的な援助について実践的に習得します。
講義の内容／ 授業スケジュール	1. オリエンテーション 2～13. 事例研究（知的障害者、社会的排除、児童虐待、高齢者虐待、DV、低所得者、ホームレス、がん告知患者、HIV感染者、危機状態にある利用者の権利擁護活動、施設福祉の相談援助事例、地域福祉の基盤整備と開発に関する相談援助事例などを、現場実践者からの話題提供等により基づき学ぶ） 14. 総まとめ1（社会福祉士として必要な倫理とは何か） 15. 総まとめ2（今後の学習において体得すべき知識・技術は何か） なお、この授業は変則的な開講形態を採用しています。詳しくは初回の授業で説明します。
準備学習	授業と並行して、実習先配属のための個別面接を数回実施します。将来のキャリアプランと突き合わせながら、資格取得および実習の必要性判断、実習目的の明確化、実習分野の絞り込み、などを夏期休業中にしておくこと。また、初回講義において実習希望分野に関するレポート、および夏期休業中のボランティア活動体験レポートの提出を課す。
履修上の留意点	受講の条件として、前期の「社会福祉援助技術現場実習I」の単位を修得し、かつ事前のスクリーニングにおいて配属実習の実施が許可されていることを原則とする。
成績評価の方法	全授業への出席を必須とする。評価は、課題レポートの提出、指定された発表などを総合して行う。
教科書／テキスト	白澤・米本編／日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助実習』中央法規 2009 その他、必要な資料は随時配布します。
参考書	社団法人日本社会福祉士会編『社会福祉士実践事例集II』中央法規 2004 その他、授業のなかで随時指示します。
その他	この授業は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な指定科目のひとつです。この授業の単位未修得者は、翌年度の社会福祉援助技術現場実習Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉援助実習の履修は認められません。

履修コード	065901 065902
科目名	地域福祉論
担当者名	川上 富雄

**講義の到達目標(ねらい)** 本講義では、今日的な福祉理念の理解、およびそれを具現化した制度・事業・実践等に関する知識の獲得をはかり、地域福祉時代のソーシャルワーカーに求められるセンスの涵養をねらいとする。具体的な講義の柱は以下の通り。

- (1) 今日的な福祉理念と地域福祉の考え方に関する理解を深める。
- (2) 様々な地域福祉活動およびその推進方法に関する理解を深める
- (3) 地域自立生活を支える様々な制度に関する理解を深める。
- (4) 地域福祉を推進する様々な機関・施設・団体に関する理解を深める。

なお、講義は高度かつ実践的内容になるので、テキスト等の事前通読を必須とする。各自充分な予習をして講義に臨んでほしい。併せて、本科目は社会福祉士国家試験指定科目ということもあり、試験内容も考慮した水準の講義を行う。

**講義の内容／  
授業スケジュール**

1. 地域福祉と生活問題～福祉制度と地域自立生活の狭間～
2. 今日の福祉理念と地域福祉の概念
3. 地域福祉の歴史
4. 地域社会の変容とコミュニティ／コミュニティ政策①
5. 地域社会の変容とコミュニティ／コミュニティ政策②
6. 社会福祉における住民・利用者参加の意義と課題
7. 住民・利用者参加活動の形態と組織①～コミュニティ型
8. 住民・利用者参加活動の形態と組織②～アソシエーション型
9. 住民・利用者参加活動の形態と組織③～コミュニティビジネス／社会的企業
10. NPO・ボランティア活動とその支援（ボランティアセンターの役割）
11. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営①
12. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営②
13. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク①
14. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク②
15. 在宅福祉サービスの歴史と現状および地域包括支援センターの誕生
16. 福祉情報化と福祉教育の推進
17. 地域福祉推進における国・地方自治体の役割・関係
18. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度①
19. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度②
20. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業①
21. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業②
22. 苦情解決システムと第三者評価事業
23. 福祉計画の系譜と地域福祉計画・地域福祉活動計画
24. 民生委員制度と民生委員活動①
25. 民生委員制度と民生委員活動②
26. 地域福祉における社会福祉施設の役割（施設の社会化）
27. 地域福祉を支える財源～公費・財団・共同募金
28. 利用者主体・地域自立生活を支える供給システムのあり方（トータルケアシステム）
29. 地域福祉と生活問題～福祉制度と地域自立生活の狭間～再考
30. まとめ

**準備学習**

テキストおよび参考図書の通読

**履修上の留意点**

地域福祉論は、他の分野論・各論系科目の横断科目的な性格が強い。児童・障害・高齢者・社会保険・生活保護分野等の制度や対象者像、利用の仕組み、施設やサービス等についての知識を前提として講義を進めるので、少なくとも2年次以降の履修が望ましい（できれば3年次履修を勧める）。他学部・他学科生で履修する学生は、『国民の福祉の動向』（厚生統計協会）や『厚生白書』などを熟読し、今日の社会問題や社会保障の枠組みに関する一定の理解を持って臨むこと。

**成績評価の方法**

前・後期末試験の成績に、研究発表・課題・レポート等を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。

**教科書／テキスト**

- 社会福祉士養成講座編集委員会編『〔改訂〕新・社会福祉士養成講座⑨地域福祉の理論と方法』中央法規出版 2010
- 山本主税・川上富雄『地域福祉新時代の社会福祉協議会』中央法規出版 2003

**参考書**

- 岡村重夫『地域福祉論』光生館 1974／復刻版2009
- 日本社会福祉士会編『新・社会福祉援助の共通基盤(下)』中央法規出版 2009
- 井岡勉監修／牧里・山本編『住民主体の地域福祉論』法律文化社 2008
- 大橋謙策・原田正樹編『地域福祉計画と地域福祉実践』万葉舎 2000
- 小林雅彦編『社会福祉の新潮流⑤地域福祉論』学文社 2010
- その他、講義中に紹介する。

**その他**

基本的には講義形式で行うが、一部、グループ研究発表などを盛り込む。

履修コード	058711
科目名	犯罪と逸脱の社会学A
担当者名	作田 誠一郎

**講義の到達目標(ねらい)** 現代社会における犯罪と逸脱に対する基本的な研究方法について概観します。その後、具体的な犯罪と非行に関する諸理論を中心に紹介し、現代社会における犯罪や非行を理解するための社会的なアプローチを身につけることが本講義のねらいです。

**講義の内容／授業スケジュール** (1) 逸脱社会学とは何か (2~4) 逸脱現象の研究手法 (5~8) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅰ (社会解体論、アノミー論等) (9~11) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅱ (レイベリング理論、コントロール理論等) (12~14) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅲ (抑止理論、割れ窓理論等) (15) まとめ

**準備学習** 今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍 (ルポルタージュや犯罪史など) に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。

**履修上の留意点** 詳細は、初回の講義で説明します。

**成績評価の方法** 期末試験 (5割)、講義内の課題提出・出席 (5割) により評価します。詳細は初回の講義で説明します。

**教科書／テキスト** 適宜、授業中に資料を配布します。

**参考書** 下記のほか、講義の中で随時紹介します。  
 デュルケム (宮島喬訳) 『自殺論』 (訳1985年刊、中央公論社、980円、ISBN:4122012562)  
 小林寿一編『少年非行の行動科学——学際的アプローチと実践への応用』 (2008年刊、北大路書房、2625円、ISBN:9784762826047)  
 河合幹雄『日本の殺人』 (2009年刊、筑摩書房、819円、ISBN:9784480064882)  
 湯浅誠『反貧困——「すべり台社会」からの脱出』 (2008年刊、岩波書店、777円、ISBN:9784004311249)  
 阿部彰『子どもの貧困——日本の不公平を考える』 (2008年刊、岩波書店、819円、ISBN:9784004311577)

**その他** 後期に開講される「犯罪と逸脱の社会学B」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	058721
科目名	犯罪と逸脱の社会学B
担当者名	作田 誠一郎

**講義の到達目標(ねらい)** 逸脱に対する社会的アプローチから官庁統計やメディア報道について考えていきます。また、犯罪・非行に関わる法執行機関と刑事司法の動向について説明します。その後、日本の犯罪や非行の近代化について明治期以降の歴史的観点から概観します。  
 後半では、犯罪・非行を中心とした社会問題について後期近代の特徴を踏まえながら論点をとりあげて検討を加えていきます。講義を通じて社会的な視点から逸脱に対する考察力を身につけ、高めることを目的とします。

**講義の内容／授業スケジュール** (1) 逸脱に対する社会的アプローチ (2) 官庁統計を読む (3・4) 犯罪報道の特徴と読み解き方 (5・6) 法執行機関と刑事司法のプロセス (7~9) 少年非行史 (10~14) 今日の逸脱研究 (精神医療化、高齢者犯罪、性の逸脱、ホワイトカラー犯罪、学校社会の逸脱等) (15) まとめ

**準備学習** 今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍 (ルポルタージュや犯罪史など) に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。

**履修上の留意点** 詳細は、初回の講義で説明します。

**成績評価の方法** 期末試験 (5割)、講義内の課題提出・出席 (5割) により評価します。詳細は初回の講義で説明します。

**教科書／テキスト** 適宜、授業のなかで資料を配布します。

**参考書** 下記のほか、講義の中で随時紹介します。  
 河野義行ほか『報道は何を学んだのか——松本サリン事件以後のメディアと世論』 (2004年刊、岩波書店、504円、ISBN:400093363)  
 浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会——誰もが「不審者」?』 (2006年刊、光文社、777円、ISBN:4334033814)  
 鮎川潤『新版 少年非行の社会学』 (2002年刊、世界思想社、1995円、ISBN:4790709442)  
 小林寿一編『少年非行の行動科学——学際的アプローチと実践への応用』 (2008年刊、北大路書房、2625円、ISBN:9784762826047)  
 日本犯罪学会編『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』 (2009年刊、現代人文社、2415円、ISBN:9784877984045)

**その他** 前期に開講される「犯罪と逸脱の社会学A」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	064821
科目名	福祉行財政と福祉計画
担当者名	笹部 昭博

**講義の到達目標(ねらい)** 本科目は、社会福祉士指定科目の一つであり、社会福祉士としての基本的な知識を学ぶため、次の2点に沿って学習を進めます。

(1) 福祉行財政の基本  
 ①福祉行財政の実施体制 (国・都道府県・市町村の役割、国と地方自治体の関係、福祉行政の法制度・財源、福祉行政と団体・専門職など)  
 ②福祉行財政の実際 (自治体における福祉組織と予算、施策・事業の展開など)  
 (2) 福祉計画の立案と実施  
 福祉の各計画の意義・目的、主体、立案のプロセス、住民参加と協働など  
 福祉制度は、戦後につくられ人口構成や社会情勢に応じて大きく変化しています。そこで福祉制度の基本的な枠組みと今日のダイナミックな変化を理解することを目標とします。

**講義の内容／授業スケジュール** 前半、第1回~8回は福祉行財政の実施体制実際  
 後半、第9回~15回は福祉計画の立案と実施  
 但し、受講スケジュールは、受講学生の理解を確認しながら調整する場合があります。

**履修上の留意点** 日頃から、新聞、雑誌などの福祉制度に関する報道、地元自治体の福祉施策などに関心を払いながら講義にのぞんで下さい。

**成績評価の方法** レポート、試験ほかにより総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 指定しません。講義の中でプリントを配布・活用します。

**参考書** 社会福祉小6法 ほか必要に応じて講義の中で紹介します。

履修コード	064841
科目名	福祉サービスの組織と経営
担当者名	波多野 実

**講義の到達目標(ねらい)** 本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、福祉サービスを提供する組織の管理運営や経営のあり方の実際について学習していきます。  
 (1) 福祉サービスに関わる組織・団体についての理解  
 ・社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など  
 (2) 福祉サービスの組織と経営についての理解  
 ・組織と経営の基礎理論、経営と管理運営の実際

**講義の内容／授業スケジュール** (1～3) 福祉サービスに関する組織や団体 (4～5) 福祉サービスの組織と経営の基礎理論 (6～10) 福祉サービス提供組織の経営と実際 (11～15) 福祉サービスの管理運営の方法と実際 (授業スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合があります)

**成績評価の方法** 出席、レポート、試験等により総合的に評価します。

履修コード	062901
科目名	法学(福祉)
担当者名	鶏徳 啓登

**講義の到達目標(ねらい)** 日本の社会は高齢化現象が進行中である。高齢者層の増加および平均寿命の上昇というこの現象は、善きにつけ悪しきにつけ高齢者の日常生活にもさまざまな影響を与えている。このような高齢化社会において、憲法が規定している「生存権」の内容である「社会福祉」にしばって、法制度面から検討し、「社会福祉行政」の各種の法令の意義内容を理解することを目標とする(小林弘人著「高齢化社会における社会福祉の法」はしがきより)。

**講義の内容／授業スケジュール** 社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明する。  
 1回～3回：社会生活における法の作用や役割についての解説。  
 4回～6回：憲法、民法および行政法の基礎的知識を深める。  
 7回～15回：日本国憲法について、とくに基本的人権を中心にした解説である。  
 16回～20回：民法における基礎的概念の説明が中心となる。  
 21回～30回：行政法の原理および各領域における基礎的概念の解説を行う。

**成績評価の方法** 出席状況と試験を勘案して、評価する。

**教科書／テキスト** 小林弘人著『高齢化社会における社会福祉の法』創成社刊(2400円)を使用する。  
 ISBN4-7944-4050-2

**参考書** 授業時間中に適宜指示する。

履修コード	065201 065202
科目名	保健福祉論
担当者名	山本 哲也

**講義の到達目標(ねらい)** 本講義では、地域保健、地域福祉の実践に欠かすことのできない、保健・福祉の連携システムの概要と、同システムにおける保健・福祉従事者の役割を学び、そこでの福祉従事者の活動内容について理解することをねらいとする。

**講義の内容／授業スケジュール** 本講義では、保健・福祉の連携システムの実践について、事例をとおして学習していく。具体的には、まず、保健・福祉が連携して関わる必要のある事例を呈示する。次に、その事例の中に登場する用語等について概説する。また、事例に登場する対象者を理解する事、事例に関わる制度について知る事を目的に講義を行う。最後に、その事例対象者を支える保健・福祉の連携システムについて概説する。

**準備学習** 毎時間、次の時間の準備のための課題を課す。

**履修上の留意点** 講義のみでなく、各自が考え、学び、理解できるよう、各自の意見を問う内容を含む授業を行うので、そのつもりで受講すること。

**成績評価の方法** 出席状況、授業中のミニレポート、課題レポート及び試験の結果により総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 必要に応じ、授業時に指定する。

**参考書** 必要に応じ、その都度指示する。

**その他** ・30分以上の遅刻は入室を認めないので、そのつもりで受講すること。  
 ・4年次生で、就職活動により欠席する場合も、特別な配慮はしないので、そのつもりで受講すること。

履修コード	058551
科目名	民法
担当者名	大宮 隆

**講義の到達目標(ねらい)** 民法は、我々の日常生活の基本法として、財産と家族に関する事項を規律する法律である。本講義は編別という親族、相続が対象である。出生、婚姻、離婚、扶養、相続という家庭生活の中で人の一生に生起するほとんどの事柄に係わる身近な法律である。家庭裁判所調査官補試験などを指す人に受講を勧めます。

**講義の内容／授業スケジュール** 親族—①婚姻、離婚  
 ②親子  
 ③親権、後見補佐補助  
 ④扶養  
 相続—①遺言  
 ②法定相続  
 ③遺留分

**準備学習** 予習が必要である。

**履修上の留意点** 教科書、条文を読むこと。

**成績評価の方法** 出席状況と試験の成績を総合的に評価を行う。

**教科書／テキスト** 『新民法概説(3)親族・相続』(有斐閣)1,800円  
 ISBN4-641-11265-7

**参考書** 適宜紹介する。

履修コード	064901 064902
科目名	リハビリテーション論
担当者名	佐藤 将朗

**講義の到達目標(ねらい)** リハビリテーション(rehabilitation)という言葉は「再び〇〇にふさわしい能力を身につける」という意味で用いられます。怪我や病気、障害などのために日常生活だけでなく、学習、スポーツ、職業生活が機能していない場合、また精神的安定が得られていない場合に、これらを回復していくことの総称と言えます。社会の中で生きる全ての人の権利や名誉が自分の意志に反して侵害されている場合に、これらを回復していくことも考えられます。

本講義では、まずリハビリテーションを医学的リハと社会的リハに大別して整理することからはじめ、リハビリの対象となる人々の個人的能力とこれらの人々を取り巻く環境との関連性について理解していきます。そして、最終的には本講義で学んだ知識を土台として、「リハビリテーションの哲学」というタイトルのもと、自分なりの考えをまとめていくことにします。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期はリハビリテーションの定義(1)、障害及び高齢の概念(2-3)、医学的リハ(4)、社会的リハ(5-7)、障害の種類・程度別のリハビリテーション(8-12)、高齢者のリハビリテーション(13-14)、前期のまとめとしての課題作業(15)とする。

後期はメディアの取り上げるリハビリテーション(1-3)、教育的リハの仕組みとその成功要因(4-5)、職業的リハの仕組みとその成功要因(6-7)、心理的リハの仕組みとその成功要因(8-9)、履修者の興味・関心に応じたリハビリテーションの今日的課題に関する討議(10-12)、「リハビリテーションの哲学」についての課題の整理(13-15)とする。

**準備学習** 障害者問題、高齢者問題、リハビリテーションがキーワードとなる各種メディア情報(新聞、書籍、テレビ番組や映画などの作品、インターネットで公表されているものなど)を自分なりに整理しておくことが望ましい。

**履修上の留意点** 「人に優しくするとはどのようなことか」、「人を支援するとはどのような意味があるか」、「人の道とは何か」といったいわゆる人道的視点について、科学的に思考できる人、あるいはそのような人物になりたいと思っている人に最適な授業だと考えます。

**成績評価の方法** 前期はまとめとして提出する課題(50%)、授業時の小課題(40%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。後期は最終的に提出する課題(80%)、授業時の小課題(10%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。これらによって得られた前・後期の成績を総合的に判断したものを全体の成績とする。

**教科書／テキスト** 特に指定しない。

**参考書** 講義中に随時指定する。

**その他** 基本的に講義形式で進める。学習する内容によっては、履修者による発表や討論を行ってもらう。また、ビデオ、DVD等の視聴を随時行う。

履修コード	065521 065522
科目名	老人福祉論
担当者名	東條 光雅

**講義の到達目標(ねらい)** 少子高齢化社会の進展に伴い後期老年期人口が増加し、要介護高齢者の急増、家族介護の深刻化、高齢者虐待の多発など、高齢者やその家族に関わる様々な社会的問題が発生し、医療・年金・介護などの社会保険制度のあり方が大きな政治課題となっている。

本講義では、わが国における高齢化の現状と動向、高齢者や家族を取り巻く状況、これまでの高齢者対策や高齢者福祉制度の変遷、現行の高齢者保健福祉制度等について理解を深めてもらうとともに、今後の高齢者支援のあり方について論じてゆく。

**講義の内容／授業スケジュール**

- 第1回 高齢者の心理・精神的理解
- 第2回 高齢者の身体的理解
- 第3回 高齢者の社会的理解
- 第4回 高齢化・高齢社会の定義とわが国における高齢化の現状
- 第5回 諸外国における高齢化の状況と少子高齢化の要因
- 第6回 高齢者を取り巻く諸問題
- 第7回 高齢者保健福祉の発展過程
- 第8回 高齢者保健福祉の現行法体系
- 第9回 老人福祉法
- 第10回 高齢者医療確保法
- 第11回 高齢者虐待防止法
- 第12回 高齢者を支援する組織と役割(1)
- 第13回 高齢者を支援する組織と役割(2)
- 第14回 高齢者を支援する組織と役割(3)
- 第15回 これからの高齢者支援

**履修上の留意点** この授業は講義形式で進めてゆくと、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらう。近年、受講生の私語や居眠りが目立つので、授業態度に問題がある場合には退室してもらう。履修学生は、気を引き締めて授業に臨んでもらいたい。

**成績評価の方法** 原則的には、3分の2以上の出席があれば定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。

**教科書／テキスト** 『高齢者に対する支援と介護保険制度』、新社会福祉士養成講座第13巻、中央法規出版、2009年3月出版予定

**参考書** 『社会福祉小六法』、『厚生労働白書』、『国民の福祉の動向』など

**その他** 講義はパワーポイントを使って行う

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

**講義の到達目標(ねらい)** 今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正(近くでは労働時間や年次有給休暇など)、男女雇用平等、労働契約法などです。本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標にしています。

**講義の内容／授業スケジュール** 下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。  
 1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。  
 以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。  
 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野  
 第2回 労働法の基礎的考え方  
 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法  
 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合  
 第5回 労働契約と労働契約法  
 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保  
 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味  
 第8回 調整  
 第9回 雇用における平等① 労基法3条  
 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止  
 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法  
 第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則  
 第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則の法的性質  
 第14回 労働条件の集团的決定③ 就業規則による労働条件変更  
 第15回 調整  
 第16回 雇用の入口① 採用  
 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度  
 第18回 人事異動 配転  
 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了  
 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制  
 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用  
 第22回 調整  
 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など  
 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金  
 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制  
 第26回 労働時間② 変形制度など  
 第27回 労働時間③ 労働時間の例外  
 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質  
 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休  
 第30回 調整

**準備学習** テキストを読むこと(少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください)。新聞を読むことなどで。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。

**履修上の留意点** 出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジメや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法、社会政策は履修してほしい科目です。

**成績評価の方法** 成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。

**教科書／テキスト** 教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法 I [第2版]』(エイデル研究所 2010)を掲げます。もとより、これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

**参考書** 概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの(法律改正や制定があるので特に注意)。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。

**その他** 各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。